2017
ISSN 0918-8711
No.38

GOLD & PLATINUM

GOLD & PLATINUM

CONTENTS

巻頭言 …… 3
特集：甲斐黄金村・湯之奥金山博物館を歩く …… 4
政治リスクの高まりと金市場のこれから …… 10
column 1（黄金に取り憑かれた男たち） …… 13
2017年プラチナ市場の現状と見通し …… 14
column 2（未熟な金から貴金属の王者に） …… 17
写真で見る驚きのゴールド④ …… 18
原油は上がらず、金は下がらない世界 …… 22
column 3（金は浮気者） …… 25
中東の人々が金に愛着を持つ歴史的背景 …… 26
2017年 協会主催講演会（抄録） …… 29
我が社の宝物（金煙管） …… 30
進化する金需要大国〜インド …… 32
2016年世界の金の供給と需要 …… 36
「自分用」から「受け継ぐ」ジュエリーへ
格上のプラチナ志向 …… 38
2016年世界のプラチナの供給と需要 …… 42
日本金地金流通協会・沿革と活動 …… 44
協会役員の紹介 …… 44
正会員 …… 45
特別会員 …… 46
登録店 …… 47
賛助会員 …… 51

表紙画像：江戸時代、徳川の貨幣システムに組み込まれてからの、刻印が打たれた甲州金。／口絵画像：本栖湖湖畔から見た富士。（出所）甲斐黄金村・湯之奥金山博物館
編集・デザイン：株式会社 麹町ディレクション（澤田直良、木下裕之）／イラスト：haruka／写真：児島一伸（4〜8p、18〜21p）、酒井 透（30ｐ）、高山 透（31p）、石田祥平（38p）

巻頭言

一般社団法人
日本金地金流通協会
会長 古宮 誠一

平素より当協会活動に対し、ご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

当協会は、昭和 54 年の発足以来、金地金の健全な流通機構の整備と正しい知識の普及を目的とした活動を行っております。

発足当初より力を傾けてきたものに「登録店制度」があります。消費者の皆様がいつでも、どこででも、安心して貴金属地金を購入できる健全な流通機構を整備するため、地金商に加えて全国の信頼ある時計店や宝飾店に参加していただいております。現在、会員数は正会員 24 社、特別会員 2 社、登録店 158 社、賛助会員 26 社の計 210 社となっております。

また、広報誌やホームページなどによる情報発信活動、研修会や講演会の開催、パンフレットやポスター類の作成などを通じて、会員や消費者に広く周知する広報活動を行っております。

こうした当協会の長年にわたる取り組みが高く評価され、平成 29 年春の叙勲におきまして、当協会の会長である私が、旭日小綬章の栄に浴しました。

当協会は、今回の栄誉を励みとし、これからもなお一層の研鑽を重ね、それぞれの活動に引き続き精進して参りたいと存じます。今後ともより一層のご指導とご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館

THE Yu-no-oku MUSEUM OF GOLD MINING HISTORY

山梨県の身延町に金山専門の博物館があると噂に聞いていた。よく知るカメラマンによれば、素晴らしいところだという。そこで過日、下見をかねて出月館長からお話を伺った。じつに面白い。というわけで、今回、本格取材と相成った。建物の造りや展示物も素晴らしいが、なにより出月館長と小松学芸員の豊富な知識と熱い思いに驚かされた。ようこそ、湯之奥金山博物館へ。

甲斐黄金村 湯之奥金山博物館を歩く

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館外観

出月洋文館長　叶内文子（聞き手）　小松美鈴学芸員

ふるさと創生事業として始まった博物館計画

叶内｜こちらの湯之奥金山博物館は開館して 20 年が経過していると伺いました。まずは博物館が開設された経緯からお聞かせください。

小松｜こちらはもともと旧・下部町が計画し建設したものですが、平成 16 年にこの辺り一帯の下部町、中富町、身延町の３町が合併して身延町となり、現在は身延町が運営にあたっています。

叶内｜それにしても、これだけの博物館の開設ともなると相当の資金が必要になりますよね。

小松｜おっしゃる通りです。旧・下部町の予算だけで賄いきれるものではありません。ひとえに昭和 63 年から平成元年にかけて実施された「ふるさと創生事業」のおかげです。当時、全国の市区町村に１億円が交付されましたが、そのお金をどのように活かしていくかは大きな命題でした。さまざま議論を重ねました結果、この地域に古くから伝わる金山伝説を調査研究し、歴史をひも解き、それを観光資源として活用して行くことはできないか、という案が有力になりました。

叶内｜それまでは、その昔この辺りには金が出たらしいよという程度のことだったわけですか？

小松｜いえ、武田信玄の時代に湯之奥金山という総称で、中山（なかやま）、内山（うちやま）、茅小屋（かやごや）という３つの金山があったことは史書に記されていました。けれども実際のところは曖昧模糊として様子が分からなかったのです。そこでまず、山梨文化財研究所の協力を得て、平成元年から３年の歳月をかけて総合学術調査を行いましたが、そこで予想外の姿が浮かび上がってきたわけです。

金山への路：緩やかな上り勾配のアプローチが印象的

叶内｜なんだかドキドキしてきますね。

小松｜じつは日本の金山開発のスタートラインに立っている遺跡がここにある、ということが分かってきたのです。それはもう驚きでした。これなら湯之奥金山を「歴史遺産」として学術的に高

聞き手
叶内 文子
経済キャスター
日本証券アナリスト協会
検定会員

出月 洋文
甲斐黄金村・湯之奥金山
博物館・館長

小松 美鈴
甲斐黄金村・湯之奥金山
博物館・学芸員

め、同時に「観光資源」としても活用できると確信し、具体的な計画がスタート。平成９年に湯之奥金山博物館として開館したというわけです。

叶内｜とても感動的なお話ですね。まさに本来あるべき「町興し」の姿だと思います。

出月｜有難うございます。このような経緯で開館しておりますから、この博物館を地域振興につながる拠点として発展させて行きたいという強い思いを、私たち全員が共有しております。

日本の金山開発のルーツがここにある

叶内｜さて、今回はじめて博物館を見せていただいて、湯之奥金山が歴史的に重要な位置づけにあるということは私にも分かりましたが、あらためて順を追ってお話ししていただけますか。

出月｜歴史的に見て最初に登場する金がどういうものかと言えば、川で採れた砂金です。専門的には「川金（かわきん）」と呼びますが、これはいわば自然がプレゼントしてくれたものです。

叶内｜はじめは偶然の発見のようなことだったわけですね、おそらく。そういえば、奥州藤原氏の金も砂金だったわけですものね。

出月｜ところが人間の欲求には限りがなく、いつしか砂金は採り尽くされてしまいます。自分たちのチカラで金を採掘したいという欲望が生まれます。そして金山開発に必要な技術と道具が揃い始めた初期の段階で、湯之奥金山がクローズアップして来るわけです。これが山を削って金を採掘する「山金（やまきん）」の始まりです。

叶内｜つまり湯之奥金山というのは、日本の金山開発のルーツともいうべき場所なのですね。

出月｜金に対する人間の欲求が、ここで新しい段階を迎えたという意味はあるかと思います。

叶内｜さきほど技術と道具というお話が出ましたが、技術という面では、それをマスターして使いこなした人々が存在したわけですね。

出月｜はい。戦国時代にいくつかあった技術者集団のひとつ「金山衆（かなやましゅう）」です。甲斐の国には「衆」と呼ばれる技術者集団がいろいろありましたが、武田氏が勢力を伸ばした背景に、彼らのネットワークとサポートがありました。そういう意味で、金山衆は、金の採掘を通して武田氏を支えたことになります。

叶内｜なるほど、そういうことですか。

金山の現場や金山衆の暮らしぶりが再現されたジオラマ（ボタン操作で説明を聞くことができる仕掛け）

甲州露壱両判（表）

甲州壱分判（表）

甲州壱分判（裏）

出月｜さらに、金山衆が持つ土木技術は、敵の城攻めや水利事業などにも活用されたようです。

叶内｜信玄堤を彷彿とさせるお話ですね。ところで当地では甲州金が有名ですが、金山衆は甲州金の鋳造にも関わっていたわけですか？

出月｜そこはちょっと違うのですね。彼らの仕事は金の採掘から地金（じがね）の精製までででした。

叶内｜役割が違うわけですか。

出月｜甲州金の始まりは、たしかに金山衆が熔かして作った碁石のような地金です。武田信玄は、その刻印のない碁石金を、部下への褒美とか神仏への奉納として使っていたようです。

小松｜実際に諏訪大社の秋宮の庭から、初期の刻印のない碁石金がたくさん見つかっています。

叶内｜日本最初の金貨といえば、甲州金のイメージが強かったのですが、やはり最初は神仏への捧げ物で、金が貨幣になっていくのは、もう少し時代が下ってからということですね。

出月｜一般に知られている刻印が打たれた甲州金が登場するのは、少し議論のあるところではありますが、武田氏滅亡後の徳川の貨幣システムに組み込まれてからのことです。

叶内｜おかげで頭の中がすっきり整理されました。ところでこちらは日本で唯一の金山専門の博物館だと思うのですが、他に例がないだけに苦心されたところもあるのではありませんか。

砂金掘り甲子園では会場が熱気に包まれる

小松｜こちらの展示対象は金山の遺跡です。けれど遺跡そのものを持ってくることはできません。そんな博物館としてのハンディを、どのように乗り越えるか、そこはとても苦心したところです。

叶内｜なるほど。博物館全体が、まるで山の中に分け入っていくような雰囲気の造りになっているのは、そういう背景があるからなのですね。

出月｜その通りです。ここは金山開発の現場を疑似体験していただける場所でもあるのです。

叶内｜では、展示の内容や手法について、具体的にお話しいただけますか。

小松｜まず入口から緩やかな上り勾配を歩いていただくと、映像シアターに到着します。そこで国内外の金の歴史やイメージに触れていただきます。つぎにジオラマ室に移って、当時の湯之奥金山がどのような環境で開発されていたのか、そし

砂金や甲州金、採掘精製プロセスを説明するパネル、道具のレプリカまで展示する資料室

砂金掘り大会で使用される純度 99.99%の砂金

て金山衆たちがどのような生活をしながら採掘や精製に携わっていたのか、ひとつひとつボタン操作で解説を聞きながら観ていただけるように工夫しております。

叶内｜たしかに大人から小さなお子さんまで、興味を持って見ることができる仕掛けですね。

小松｜有難うございます。そして次の資料室では、砂金や甲州金の展示、パネルを駆使した採掘精製プロセスの説明、道具のレプリカ展示などをしておりますから、実感を持って金山の歴史や背景、実際の作業プロセスなどを理解していただけるのではないかと思っております。さらに一階には砂金掘り体験をしていただける場所もありますから、学んで遊べる博物館でもあります。

叶内｜イメージをつくって、実物を見て、最後に実体験をする、という流れですよね。あと、いろいろなイベントも行われていると伺いましたが。

小松｜たとえば夏休みイベントで毎年キャンセル待ちが出るほど好評なのが、「こども金山探検隊」。戦国期の鉱山作業を親子で体験していただこうというもので、最後は 1 グラムのオリジナル甲州金を作って完成というプログラムです。

叶内｜それは面白そうですね。

小松｜もうひとつの人気プログラムが、二部構成の「砂金掘り大会」です。初日が一般向けの大会、二日目が灘や開成など有名校が学校の看板を背負って競い合う「砂金掘り甲子園」です。

叶内｜有名校対決ですか。

出月｜会場全体が熱気に包まれます。とてもマニアックな大会なのですが、毎年全国から 200 名近くの方が参加してくださいます。おそらく日本最大の砂金掘り大会ではないでしょうか。

叶内｜開館してから続いているのですか。

小松｜「こども金山探検隊」と「砂金掘り大会」は開館 4 年目から続いている定番イベントですが、「砂金掘り甲子園」は 7 年目にスタートしました。こちらはたまたま前年に灘の先生が博物館を訪れてくださいまして、雑談をさせていただくなかから生まれたアイデアでした。幸運は重なりまして、数日後に開成の先生がいらっしゃいました。そこで、開成と灘で対抗戦をやりましょう、と。最終的に地元である山梨の駿台甲府にも加わってもらい、当初は 3 校で始まりました。

叶内｜まさに、思いは通ずる、ですね。

小松｜おかげさまで現在 10 校ほどの規模での実施となっておりますが、先駆けとなった灘と開成

砂金採りにチャレンジする叶内さん

大人から子供まで一緒に楽しく遊べる砂金採りの様子

は毎年かならず参加してくださっています。

出月｜ほんとに有り難いことです。

叶内｜灘と開成が常連というのは大きいですね。

小松｜もうひとつ「化学実験教室」というものもあります。こちらは開成の先生の発案で、夏休みの授業として続けていただいています。

叶内｜楽しそうなイベントがいっぱいですね。

小松｜ほかにも遺跡見学会があったり、地元の狭南高校クラフト科との共催で彫金教室を開いたりしています。地元の協力は励みになりますね。

叶内｜いいですねえ、それは。

出月｜ローカルな博物館には、ローカルなりの課題がありますが、それをひとつひとつ解決することで成長していけるのかなと思っています。また、博物館が持っている集客力を活用し、身延町や周辺地域を盛り上げて行こうという動きとも連携させていく必要がありますから、我々もさらに工夫を重ねて行かなければと考えております。

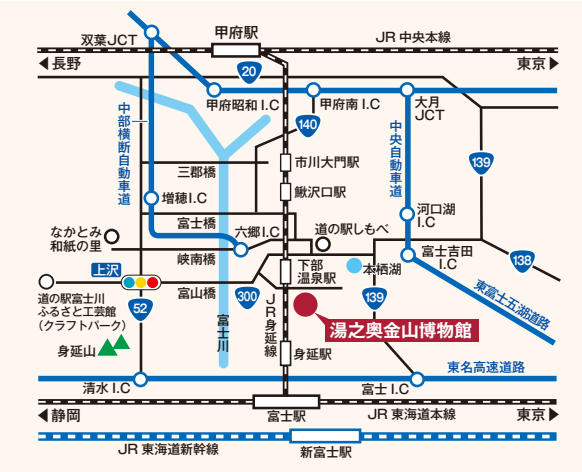
叶内｜町の未来につながることですものね。では、博物館の今後の計画などを教えてください。

小松｜大々的なリニュアルを５、６年前に行いました。ですからしばらく大きな計画はありませんが、展示のリニュアルは常にあります。全国各地の砂金収集を着実に進めるとか、パソコン基盤などを収容する新しいケースを用意するとか。ただ小さな博物館ですから、資金的な余裕もあまりなく、基本すべて手作りになっています。

出月｜この博物館は学術的な側面を大事にしていると最初にお話ししましたが、学術的な研究はどんどん進んでいますし、金山遺跡も順次調査が進んでいますから、少しずつでも展示に反映していくことが大切と考えています。東京オリンピックの金メダル製造では都市鉱山を活用しているというようなテーマも取り込みたいと思っています。じつは海外からも情報がたくさん寄せられてきますから、人類が共有する金に対するあこがれを学術的にきちっと捉えて紹介し、山梨の片田舎ではありますが、自信を持って情報発信をしていくことも大切な役割なのかなと思います。

叶内｜金や金山の魅力を通して、社会や歴史も学べる、とてもユニークな博物館だと思いました。本日はていねいなご案内からくわしいお話まで、有難うございました。とても楽しい時間でした。ますますのご発展をお祈りしておりますね。

出月｜こちらこそ有難うございました。ぜひまたお気軽にお立ち寄りください。



甲斐黄金村・湯之奥金山博物館

開館時間：7月～9月：9時～18時（入館17時30分まで）
10月～6月：9時～17時（入館16時30分まで）
休　館　日：毎週水曜日（祝日の場合はその翌日）※8月は無休
入　館　料：大　人500円（1,100円）＊（）は砂金採り体験含む
学生／団体割引あり

所　在　地：〒409-2947
山梨県南巨摩郡身延町上之平1787番地先
連　絡　先：TEL. 0556-36-0015

交通案内
（自動車利用の場合）
中央自動車道：甲府南I.C. から50分　河口湖I.C. から50分
東名高速道：富士I.C. から80分　清水I.C. から90分
（電車利用の場合）
新宿駅～甲府駅（中央線特急90分）～下部温泉駅（身延線特急40分）
富士駅～下部温泉駅（身延線特急60分）
（バス利用の場合）
富士吉田駅～下部温泉（富士急行バス90分）

政治リスクの高まりと金市場のこれから

マーケット・ストラテジィ・インスティテュート代表
金融・貴金属アナリスト
亀井 幸一郎（かめい こういちろう）

中央大学法学部卒業。山一証券、日本初の FP 会社マネー・マネジメント・インスティチュート、ワールド・ゴールド・カウンシルを経て独立。「史観と俯瞰」をモットーに金融市場から商品市場、国際情勢まで幅広くウオッチしている。

金市場を見るにあたり 2017年の大きなテーマは、欧州を中心とした政治的リスクに代表される「不確実性」だった。そもそも政治リスクがテーマになったのは、国際政治の舞台で予想外の出来事が続いたことによる。まず 2016 年 6 月末に起きた英国のＥＵ（欧州連合）離脱の決定だった。世論調査では直前まで残留派が大勢を占めていたが、結果は逆だった。市場は動揺し、株は売られ為替市場も乱高下を免れなかった。その際に金市場は逃避資金を集め 1377.50 ドルまで上昇することになった。

もうひとつは、やはり 2016年に実施された米国の大統領選挙だった。こちらも支持率で始終リードを維持し、優勢と見られていたヒラリー・クリントン候補が敗れる番狂わせとなった。投票日が迫る中でスキャンダラスな過去の言説が表面化するなど、支持率が低下していたトランプ候補が勝つと予想した専門家や調査会社は、皆無に等しかった。

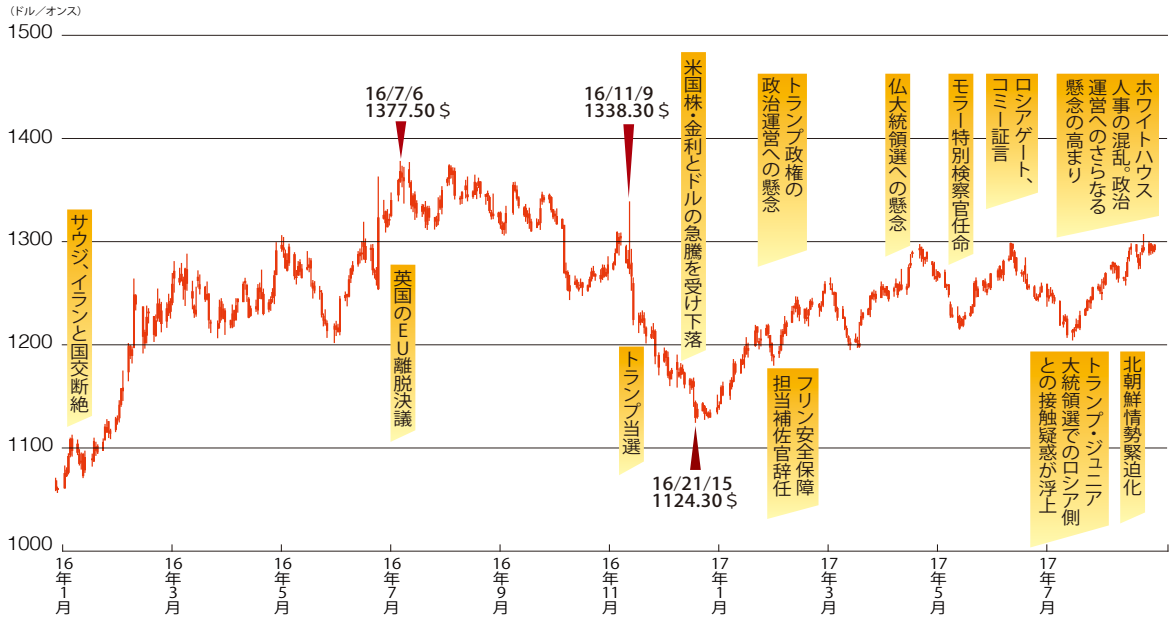
この政治的イベントを巡る２つのサプライズがその後の市場に警戒感を持たせることになる。なぜなら政治的リスクに代表される「不確実性」は、投資分析上の数値化が難しく、したがってヘッジが出来ないことによる。対応策を取っていても、たとえば首脳の一言で環境がガラリと変わってしまうことがあるからだ。不透明な環境への対応策として、ファンドなどは現金比率（キャッシュ・ポジション）を高めるという対策を取るが、金で代替するところもある。

こうした流れの中で 2017年は、まず主要国で選挙が多く予定されていた欧州に関心が注がれることになった。既成政党による統治の延長では、英国や米国で起きた変化にはつながらず、閉塞感も打ち破れないとの機運が欧州各国で広がりを見せ、耳触りのいい政策を掲げる大衆迎合的な政党とその候補者の支持率を上げていた。その多くが反ＥＵや反ユーロの政策を掲げていたことも市場の警戒感を高めさせ、金市場をサポートした。

2017 年上半期で消えた欧州政治リスク

関心の中心は、既存の流れが変わる可能性の大きかったフランス大統領選だった。話題の焦点は、極右政党とされた国民戦線のルペン党首に注がれた。大衆受けする話しぶりや政策から米大統領選でのトランプ旋風に重ねる有権者も多く、波乱を予見させ市場の警戒感を高めさせた。フランス大統領選は、上位２名の候補者に絞り込む目的から１次投票、さらに上位２候補による決選投票と２段階で行われる。結論から言って、2017 年上半期の最大の政治リスクと目されたフランス大統領選は４月の１次投票前がもっとも警戒感が高まることになった。上位２候補に、親ＥＵを掲げる候補者が残らないのではと懸念されたことによる。実際に４月 23 日の投票日前に金価格は、（この時点での）年初来高値を更新し 1297.40 ドルの高値をつけることになった。そして、上位候補者２名の中に、親ＥＵ派のマクロン候補（現大統領）が残ったことで、警戒感は急速に後退し、金価格も反落という経過をたどることになる。その後、５月７日の決選投票で予想通りマクロン候補の当選が決まった際には、金価格は 1200 ドル方向への下げが加速することになった。同時に欧州の政治リスク自体が金市場の関心事から消えるこ

■政治リスクとドル建て金価格の推移（図1）　2016年1月～2017年8月



ととなった。その一方で急浮上したのが、米国の政治リスクだった。前年の選挙運動に際してのロシア政府との関係などトランプ大統領がかかわる問題（ロシアゲート）に加え、政権運営と政策実行への懸念、外交面では北朝鮮情勢が不透明要因として前面に出ることになった。

米追加利上げと政治リスクがせめぎ合う金市場

2017年に入って以降の金価格は、2月以降8月末までの半年間にわたり1200～1300ドルのレンジ相場を形成してきた（図1参照）。2015年12月に2008年のリーマン・ショック以降初めての利上げを実施し、ゼロ金利からの脱出を果たした米連邦準備理事会（FRB）。2016年12月に2回目の利上げを実施し、2017年に入って3月、6月と2度の追加利上げを行なった。そして6月には過去の大規模な量的緩和策の結果、膨れ上がっている保有資産の縮小の工程表を発表。9月には実施を決めると見られている。つまりFRBは金融政策の正常化作業（出口政策）を着々と進めている。引き締めへの政策転換を意味し、ドル高につながりやすい米国金利の上昇は、金利を生まない金にとって天敵ともいえる悪材料。つまり金融環境としては過去2年にわたり金市場にとっては頭上に暗雲が漂い青空が見えない環境が続いているといえる。

それならば弱気に傾くかというと、FRBにより整備された金融環境をも変えうる政治リスクの存在が、金価格のサポート要因となっている。興味深いのは、5月以降金が売り込まれレンジ下限の1200ドルに接近したところで、いずれも政治リスクが高まり反転するきかっけとなってきたこと（図1参照）。「相場の綾（あや）」とでも表現で

■米長期金利［10年国債の利回り］の推移（図2）　2016年1月～2017年8月

きるが、５月９日の安値当日には、トランプ大統領によるコミー前ＦＢＩ長官の電撃解任、７月10日の安値時には大統領の子息ドナルド・トランプ・ジュニアと娘婿ジャレッド・クシュナー（現大統領上級顧問）らが昨年の選挙戦中にロシア人弁護士と面会していたことが判明し金をサポートした。

その後、７月下旬から８月初めにかけてホワイトハウスでの人事を巡るごたごたから政権運営上の不透明感が一気に高まったのは記憶に新しい。半月の間に大統領首席補佐官をはじめ主要メンバーだけで５名ものスタッフが入れ替わるという前代未聞の混迷状態となった。そこに、北朝鮮のミサイル発射をきっかけに米朝間のトップ同士が言葉での「威嚇合戦」を繰り広げ、北朝鮮情勢の緊迫度が一気に高まることも加わった。米国の物価上昇のペースが鈍いことから追加利上げ観測が後退したこともあり、金は、８月中に今年に入り３度目の年初来高値の更新となった（高値1331.90ドル）。

金融政策からバトンタッチ 危惧される政治の機能不全

政治リスク、とりわけトランプ政権を巡るリスクは、この先も金市場を刺激する要因となりそうだ。ワンマン経営者然として意に沿わない結果には、それが議会の重鎮議員であろうとも公然と強い口調で非難する大統領。友党たる共和党議会指導部との反目すら危惧される中で、今後の重要法案の成立などが懸念される。オバマ政権時代から、米国議会内での共和党と民主党の対立は、「決められない政治」として金融市場でも悪材料視されてきた。いまやＦＲＢは金融正常化に向け動きだし、景気のサポート役を金融政策に期待するのは難しい時間帯に入ろうとしている。今後は政府による財政や規制緩和など政策運営に景気サポートのバトンを渡す必要があるにもかかわらず、政治が機能不全状態となると、米国景気の先行きが懸念される。米国の景気拡大は、この７月で９年目に入っている。戦後の拡大期の平均は５年強となっており、過去最長は10年間であることを考えると、景気拡大の終盤に来ているといえるだろう。景気循環という側面からもこの先の追加利上げも限られたものになると思われる中で、政治の混乱が続くならば、金価格は堅調さを持続すると思われる。

なお、政治リスクは金価格ばかりか、米長期金利の動向にも強い影響を与えている。（図２参照）

黄金に取り憑かれた男たち
「金山の仲間入り」は失敗のもと

鍋島 高明（なべしま たかはる）
1936年高知県出身、59年早大政経卒、同年日本経済新聞入社、商品部次長、編集委員、日経総合販売を経て、97年市場経済研究所代表取締役

江戸の国学者、上田秋成は大阪堂島の商家で育った。だから小さい時からお金の大切さを教え込まれていた。この点で井原西鶴と共通する。西鶴は花木よりゼニを上位に置き、秋成は「金は七の宝のつかさなり」と言い切る。因みに七宝とは金、銀、瑠璃（るり）、玻璃（はり）、蝦蛄（しゃこ）、瑪瑙（めのう）、珊瑚（さんご）を指す。古来、人は黄金に憧れ、取り憑かれ、さまざまなドラマが生まれた。

アメリカのノーベル賞作家ユージン・オニールの傑作「楡の木陰の欲望」に黄金熱に取り憑かれた若者が登場する。時代設定は1848年、ゴールド・ラッシュに全米が沸き返るころ、東部の農民たちは綿花作りをやめてカリフォルニアを目指す。「ああ！カリフォルニアに行こう！たらいさげても」と金鉱探険家の歌を歌いながら幌馬車は西へひた走る。

「タバコ・ロード」で知られたアメリカの作家コールドウェルが「神の小さな土地」で黄金熱に冒された男を描いている。

「わしはあんまりひどい黄金熱にとりつかれたんで、とても棉花の根付けなどにかかわりあっちゃいられねえ。土の中から山吹色のかわいらしい金塊を掘り出すことにもう夢中なんだよ。天地がひっくりかえろうと、大水が出ようと、金鉱を見つけるまでは掘り続けずにはいられねえ」（龍口直太郎訳）

金鉱の発見を信じ、15年間もやせた農地を掘り続ける老農夫のセリフだが、骨の髄まで黄金熱に冒され、ひたすら掘り続ける。

「トム・ソーヤの冒険」などで知られるユーモア作家マーク・トウェーンはみずから黄金熱に取り憑かれカリフォルニアに向かう。初め銀山にチャレンジするが、のち金山に乗り換える。「西部放浪記」の中で描いている。

「細い流れの底にきらきら光る金色の薄片が沈んでいるのを見つけたわたしは、ほとんど息が止まりそうになった！金鉱だ、つまらぬ銀ごときで喜んでいたとは、なんとおめでたいんだ！」（吉田映子・木内徹訳）

私小説作家の瀧井孝作は金山熱に取り憑かれてしまった父をテーマに数々の短編を残している。「慾呆け」「哀しき老父」「金鉱の夢」「父の活計」など80歳になっても一攫千金の夢を追う父親のことを書き続けた。死期迫る父は枕元に控える息子にこう命じた。

「金山にはこれまで3,000円くらいつぎこんだで、元金だけ戻ればええから、今手放すんぢゃ」

西鶴は「日本永代蔵」の中で「金山の仲間入り」を禁じている。金山を仲間と共同開発しようとすると、必ずといっていいほど金銭上のトラブルで失敗する、やるなら1人でやれと説いている。

2017年プラチナ市場の現状と見通し

ICBCスタンダードバンク東京支店　代表支店長
池水 雄一（いけみず ゆういち）

1987年上智大学外国語学部英語学科卒、同年住友商事に入社。ゴールドのトレーダーとしてクレディスイス銀行、三井物産を経て、2007年スタンダードバンクに移籍。著書に「金投資の新しい教科書」（日本経済新聞出版社）などがある。

価格逆転現象が続く背景

過去1年間貴金属4メタルの中でもっともパッとしなかったのがプラチナだ。ゴールドとの価格逆転も2015年年初から始まり、もはや2年と8ヶ月を超えており、過去最長、最大の逆転劇になっている。その逆転幅は一時350ドルまで拡大し、過去30年の平均であるプラチナ高160ドルからほぼ500ドル、ゴールドが高く、プラチナが安い状態にある。

なぜゴールドがプラチナよりも高いのか？ゴールドの一年の鉱山生産量（2016年）は、3222トン（GFMS Gold Survey 2017より）、プラチナは188トン（同PGM Surveyより）とほぼゴールドの17分の1に過ぎない。プラチナの方がはるかに希少価値が高いはずである。しかしここ3年間の値動きはこうした実態の反映でないことは明らかだ。最近のプラチナをも含めた貴金属の価格形成は、「投資」マネーの動きの反映と見て良いだろう。英国の国民投票によるEU離脱の決定、米大統領選挙でのトランプ氏の勝利など、多くの人々の予測を覆す出来事に、投資家の不安は増す一方であり、ゴールドへの避難買いを促してきているのだ。そして、重要なのは、先行きの不安にゴールドを買う投資家がいても、プラチナを買う投資家はあまりいない、ということだ。

それどころか、プラチナ触媒をメインに使うディーゼル車の主戦場である欧州では、とくに小型車における脱ディーゼル車の動きが目立ってきており、プラチナの需要の減少につながっている。その上、プラチナ需要の約3割を占める宝飾需要、そのうちの8割を占める中国の需要がこれまた不調となっており、まさにプラチナはゴールドとは対照的に、積極的な買い手が存在しないマーケットなのだ。

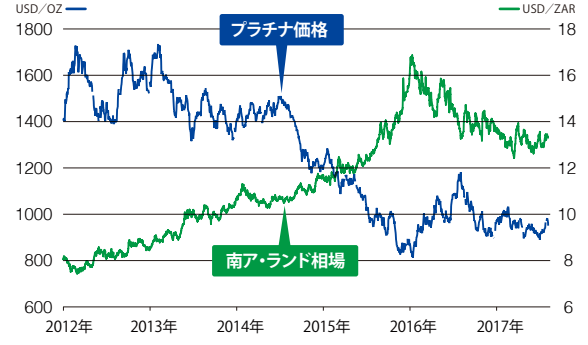
プラチナを取り巻く環境

供給：南アプラチナ鉱山の現状

南アは世界のプラチナの70%を生産し、支配的立場にある。それに続くのがロシア（11%）、ジンバブエ（8%）、カナダ（4%）、そして米国（2%）、あとはその他である。ロシア、カナダ、そして米国での生産はほぼ副産物として生産されている。それに対して南アとジンバブエでは、主にプラチナがメインの鉱山からの生産である。

その南アのプラチナ生産コストは今から6年前2011年には、1569ドルであった。しかし2011年の平均価格は1721ドルであり、まだプラチナ鉱山は利益幅を持っていた。しかし2011年から南アのプラチナ鉱山産業のコスト構造は大きく変化し、2016年には、プラチナ採掘コストは975ドルに大きく下落している。この変化の最大の要因は、南・アランドの価値の暴落だ。

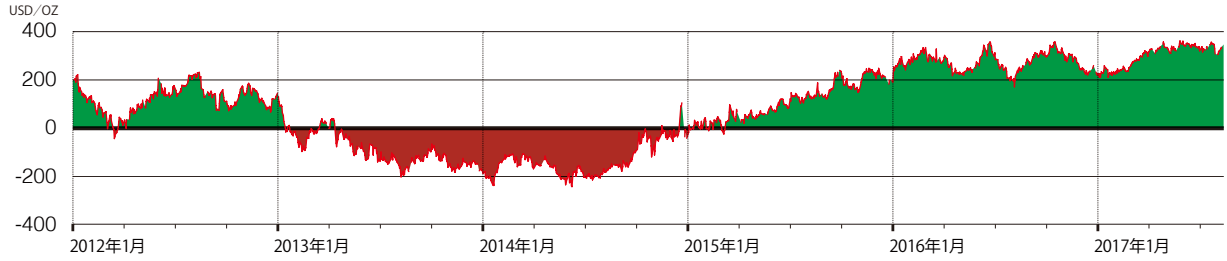
プラチナ価格と南ア・ランド相場　2012年1月～2017年8月15日



プラチナと金の価格逆転

2012年1月～2017年8月15日

プラチナと金の価格乖離



1ドル7.26ランドから、14.7ランド（2011～2016年の平均）まで、ほぼ半分にまでその価値を切り下げている。それでもまだ業界の半分は赤字ということになっている。

このような状況下では、本来、生産調整が必要となる。しかし、南アの失業率は25%もあり、大規模な失業につながるような政策を取ることは政治的に不可能。その上、鉱山は大規模で複雑なオペレーションをしており、それを一時的でも閉山という形で止めることは、ふたたび再開するためにかかる莫大な時間とコストを考えるとまさに「最後の手段」であるのだ。目の前では損をしてでも生産を続ける方がはるかに問題の少ない選択肢であるのだ。これだけマーケットが低迷し、生産コストを割り込んでいても、南アのプラチナ生産量が減少しないのは、その背景に南アが抱える問題があると言えるだろう。

需要：自動車触媒とEV（電気自動車）

プラチナ需要の約4割を占める最大のものは「自動車触媒需要」である。それも主にディーゼルエンジンにプラチナは使われる。ディーゼル自動車の主なマーケットは欧州であるが、フランスのユロ・エコロジー相が、2040年までに国内でのガソリン車とディーゼル車の販売を禁止する方

針を発表。このフランス政府の動きに追従するように、今度は英国政府が 2040 年までにガソリン車とディーゼル車の販売を禁止すると発表。奇しくも欧州の英仏両国がまったく同じ政策を打ち出し、自動車メーカー、ボルボは、2019 年以降の彼らの作る自動車すべて、少なくとも部分的にでも「電気化」したものになると発表し、BMW は今年第一四半期の決算発表で、『我々のポートフォリオ（この場合同社の生産する自動車群）の「電気化」は最優先事項である』としている。政府や自動車メーカーによる「電気化」への投資が勢いを増してきている。

中国では、現在の目標は 2025 年までに自動車売り上げの最低 20% を新エネルギーにするというもので、中国政府はコストを下げるため、次世代の世界の自動車産業においてリーダーとなるべく、業界再編を強いている。2016 年は 50 万台の電気自動車とハイブリッド車が中国で売られたが、これは前年比 50% 増という数字である。

EV（電気自動車）への勢いが止まらないように見える一方、現在の各国、とくに欧州での新たな排ガス規制（Euro6）においては、もっとも合理的な対応策は、EV を増やすことではなく、この規制に適合したディーゼル車を増やすことであるという見方があり、一挙に EV 化がすすむと考えるのはまだ時期尚早と見る専門家も多い。全自動車における EV の占める割合は、現状 1% にも満たず、それが 10 年後に大手のシンクタンクがいうように 4% に上昇したところで、プラチナ相場に直接大きな影響があるとは思えないと言うのが筆者の正直な印象だ。ただし、今後の各国政府の規制の舵取り次第では、EV化が一気に進む可能性もあるが、今言えることはどう転ぶにしてもまだ時間がかかるということだ。

今後の相場見通し

この環境が続く以上、ゴールドに対するディスカウントは簡単には解消されないだろう。ただし、このところ 975 ドルという生産コストに戻ってきており、さすがにここからの大きな下げは考えづらい。800 ドル台は現在の南アのプラチナ鉱山のコスト構造を考えると底値圏であろう。過去 1 年間 900 ドルを本格的に割り込む場面はなかったのがその証左。しかし最悪の環境は変わらず上値も限られよう。少なくとも 2017 年いっぱいは、900 ドルから 1000 ドルの値動きになるのではないか。プラチナ独自の要因よりもゴールドの動きに連れた動きとならざるを得ない。円建てでは、円とドル建てゴールドの相関が非常に高い現在、より動きづらい状況が続いている。2017 年 4 月以降は 3250 円から 3450 円のほぼ 200 円のレンジに閉じ込められてきたが、8 月半ばを過ぎてこの上値にトライし超えてしまいそうな雰囲気である。ようやく売られすぎたプラチナがゆっくりと買われつつあり、プラチナにとっては長く続いてきた低迷に少し変化が見えてきたようである。根本にある希少価値、そしてその産業的な価値を考えると、世界の政治的な緊張が解け、金融政策の正常化が行われ、先進国および新興国の景気が浮揚してくれば、自ずからゴールド売り、プラチナ買いも強まり、現在の価格逆転幅も縮小、プラチナ・ゴールドの逆転もありえよう。問題はそれがいつになるのか、まだその見当がつかないことなのだ。

未熟な金から貴金属の王者に

おかもと　まさふさ
岡本 匡房
1964年慶應大学経済学部卒、同年日本経済新聞社入社、日経産業消費研究所商品研究部長兼日経ゴールドレポート発行人。現市場経済研究所主幹。

17世紀、南米はコロンビアで銀のように白色をしていながら錆びない奇妙な金属が発見された。これを現地の人は「プラチナ・デル・ピント」と呼んでいた。「ピント川の小さな銀」という意味で、これがプラチナの語源になった。

プラチナはまた「未熟な金」とも呼ばれた。昔、分子構造が分からなかった時代、プラチナは「金になる途中の物資」と考えられた。その後、科学が発達、メンデルの周期律表が出ると別の金属と認められるようになった。今ではパラジウムなどと一緒に「プラチナ族」と認定されている。

比重は21.4。金の19.3より重く、貴金属では最も重い。採掘費も金よりかかり、かつては金より高く取引されていた。「未熟な金」が「貴金属の王者」になったのだ。しかし、近年、金に人気を奪われ、価格面では後塵を拝している。

プラチナは化学工業の触媒に多く使われ、欧米では長い間「工業用素材」として扱われてきた。色が金に比べて地味なうえ融点が高く、加工しにくく、装飾品としては扱いにくかった。

ただ、装飾品として使われていなかったわけではない。パリのルーブル博物館ではエジプト古代王朝の第25王朝（紀元前720～659年）に作られたといわれる小箱が飾られている。大半が銀だが、一部にプラチナが使われている。

テーベというファラオ（＝王）の娘の墓から出土したもので「テーベの小箱」といわれ、「最古のプラチナ製化粧箱」とみられている。南米でも10世紀頃から使われていたともいわれる。

そんなプラチナが日本では「ジュエリー」として扱われ、結婚指輪などによく使われている。きっかけとなったのが「戦前、芸者さんが装飾に使った」という説。

「芸者さんは歳をとって色香がなくなると老後が不安になる。そこでお座敷につけて出てもピカピカ光る金より地味なプラチナを旦那にねだった。それが上流婦人の間に広がり、プラチナの指輪が好まれるようになった」という。

これはある貴金属商の社長だった人の説だが、まんざらあてはずれともいえないだろう。ワビ、サビを好む日本人には「金よりプラチナ」の方がジュエリーとして肌に合っていると考えている人も多い。そのうえ長い間、金より高かったので「投資」にも向いていた。

いまでも工業用資材として、化学工業で触媒や自動車の排気ガスの除去などに使われている。だが、日本以外にも中国などでも「投資の対象」として認められるようになってきた。

プラチナは生産国が南アとロシアに限られ、生産量も金の10数分の1と少ない。きっかけがあれば価格が再び金を上回る時代が来るかもしれない。

写真で見る驚きのゴールド④

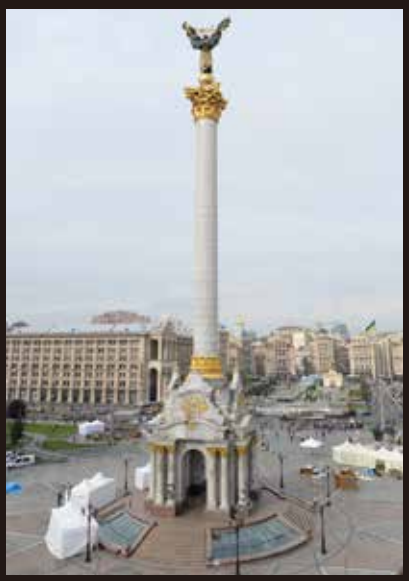
撮影：児島 一伸

ゴールドは古来、富の象徴とも世俗権力の象徴ともされます。
しかし、この太陽のごとき輝きを放ち続ける物質は、
世界のあらゆる宗教においても、隔てなく愛用されています。
まさに民族も国境も宗教も越える資産とされる所以かも知れません。
「写真で見る驚きのゴールド」、じっくりお楽しみ下さい。

スリランカの仏教聖地キャンディに建つダラダー・マーリガーワ寺院には、「釈迦の犬歯」が納められている。
その宝石が散りばめられた仏舎利のごとき黄金の容れ物が納められている部屋の扉は、日に３度の礼拝時にのみ開かれ、大勢の参拝者で溢れかえる。

「仏歯寺」とも呼ばれるキャンディのダラダー・マーリガーワ寺院にある黄金のトンネル。「エサラ・ペラヘラ祭」では、仏歯の容れ物を載せた象が練り歩くが、本堂に続くこのトンネルは象が通れる大きさに作られている。

黄金ドームの都とも言われるウクライナの首都キエフにあるペチェールシク大修道院。11世紀半ばに建立された歴史あるロシア正教会系の修道院。1990年には世界遺産リストに登録された。



◀ウクライナの首都キエフの独立広場に建つ高さ52mの記念碑。独立から10周年の節目に当たる2001年に完成。テマリカンボクを見立てた黄金の枝を持つ女神像が頂きに立っている。

◀物質・材料研究機構(NIMS)オリジナル都市鉱山メダル。直径6cm。Urban mine goes beyond 2020と刻まれている。

▶世界遺産ダンブッラの黄金寺院。2000年以上も前に建立されたスリランカ最大の石窟寺院で、壁や天井一面に壁画が描かれている。

秋田県は田沢湖畔に建つ伝説の美少女たつこ姫。ブロンズ像だが金粉の漆塗りで、1968年（昭和43）に完成したもの。

岩手県盛岡市の報恩寺にある、金色に輝く五百羅漢像。お堂にズラリと並ぶ姿はまさに壮観。五百羅漢の中から、肉親に生き写しの顔が見つかるとも、自分に似た羅漢が見つかるともする言い伝えがある。

原油は上がらず、金は下がらない世界

日本経済新聞社　編集局編集委員
志田 富雄（しだ とみお）

昨年初めに中国を中心に不安が増した世界経済に対する市場の見方は、楽観論を取り戻しつつある。自動車や電気機器がインターネットとつながる『ＩｏＴ』やビッグデータの活用が台頭してきたことで電子部品の生産は旺盛な需要に追い付かず、自動車生産も好調だ。米国の労働需給は引き締まり、少子高齢化が進む日本では人手不足が深刻な問題になっている。

50ドル前後をさまよう原油相場

株価はニューヨーク市場のダウ工業株30種平均が８月に初めて２万２０００ドルを超え、東京市場の日経平均も一時２万円台を回復している。本来であれば、世界景気の先行きを占う指標である原油、銅などの国際商品相場も上昇基調を強めるはずだ。しかし、現実は原油相場が１バレル40～50ドル台で行ったり来たりを繰り返す。昨年初めの20ドル台の安値から見れば大幅に回復したとはいえ、2014年前半まで当たり前のように考えていた「100ドル台」はもはや雲に隠れて見えない。それどころか、60ドルが大きなカベとなって上値を押さえている。銅相場もしかり。８月に入って基調を強めても１トン６０００ドル台に乗せるのがやっとの状況だ。

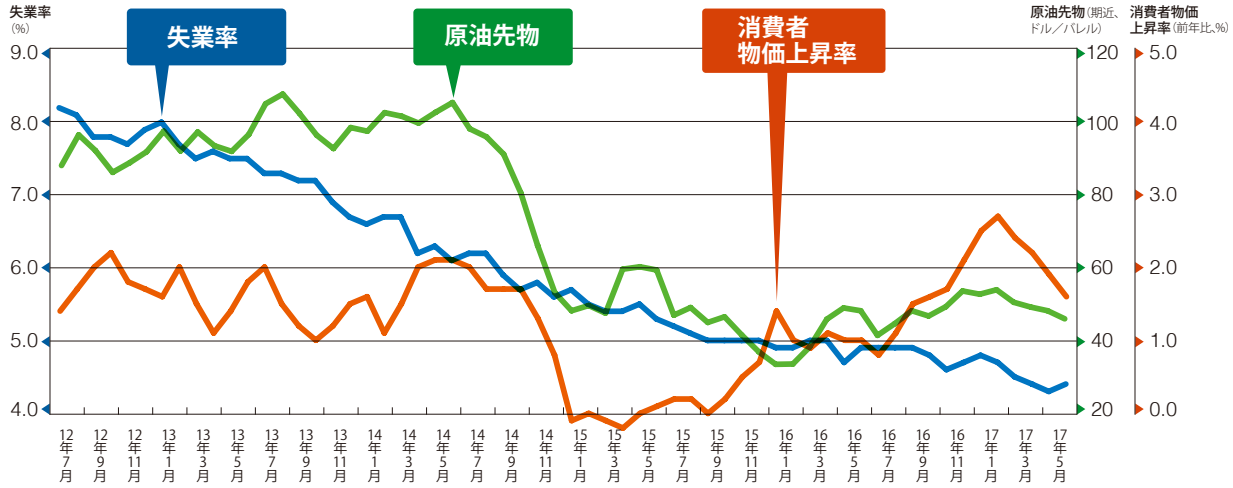
金を除く「景気連動商品」で唯一の例外は鉄鋼原料だろうか。鉄鋼製造に使う石炭のスポット価格は今年一時１トン３００ドルを超え、昨年初めの３倍以上に高騰した。11年の最高値さえ視野に入る急騰だ。だが、それとて中国政府が石炭生産の過剰解消を狙い、鉱山の操業日数を制限したことが急騰の主因だ。けっして中国経済が景気刺激策に沸いた11年までの好況を取り戻したわけではない。消費主導型経済への転換には時間がかかり、鉄鋼製造の過剰設備の解消は遅れ気味だ。中国の過剰生産は米トランプ政権をいらつかせ、貿易摩擦や保護主義的な動きを誘発している。

英豪資源大手リオ・ティントのジャンセバスチャン・ジャック最高経営責任者（CEO）は日本経済新聞とのインタビューで「資源市場は低成長の時代に入り、先行きには不確実性が増した」と指摘する。生産性の向上に経営の軸足を移した資源大手は、以前のように量の拡大には走らない。世界の需要が勢いよく拡大し、商品相場が長期にわたって上昇する「スーパーサイクル」が終わったことは間違いない。

米原油先物市場では、ヘッジファンドなどの大口買い残高が今年２月に初めて70万枚（１枚は１０００バレル）を超えた。「アラブの春」をきっかけに産油国の情勢が不安定になり、原油相場が高騰した11年初春の２倍、史上最高値を記録した08年で最も多かった時期の３倍の規模だ。米国が昨年から２度目の政策金利引き上げに踏み切っても、商品市場には大量の余剰資金がなだれ込む。鉄鋼原料や鉄鋼製品の価格急騰には売買が膨張した大連、上海の先物市場の影響も無視できない。

それでも原油相場が60ドルを超えられず、多くの国際商品の上値が重いのは相場の長期トレンドを決める需給バランスが「供給能力の過剰」にあるからだ。米国の石油サービス会社、ベーカー・ヒューズが毎週まとめる石油リグの稼働数は７月末時点で760程度まで回復し、直近でもっとも減った昨年５月の２倍以上に増えた。相場高騰時に花開いた、硬い岩盤層から天然ガスや原油を吸

■ 米国の失業率は低下したが、消費者物価や原油相場の上昇は鈍い



い上げるシェール開発の技術は、14年以降の相場急落により低コスト化に磨きがかかった。原油相場が50ドルを超えれば新規の開発に着手するシェール企業が増え、60ドルを超えようものなら一気に勢いづく。たとえシェール企業が次々と倒産しても開発技術は消えてなくならない。ベネズエラ情勢の混迷や中東情勢の緊迫は原油の安定供給を損なう大きなリスクになる。しかし、供給障害が現実になり、原油相場が高騰しても、現状ではシェールの生産増が補ってくれる。原油相場が60ドルを超えて上がらない理由だ。

もうひとつのオイルピーク論

技術革新は石油需要の伸びにも影響する。フランスや英国はガソリンや軽油で走る自動車の販売を40年に法律で禁止する方針を打ち出し、自動車大国の米国でもハイブリッド車や電気自動車（EV）の普及が急速に進む。自動車の普及途上にある新興国でも、環境対策に力を入れる中国が補助金でEVなどの普及を推進する。技術革新によって押し上げられた供給能力と需要がバランスするためには、世界経済が力強さを増し、石油需要が伸びの勢いを取り戻すことが不可欠だ。だが、技術革新は肝心の需要の拡大シナリオにも疑問符を付ける。

シェール開発の技術革新によって生産コストが下がっても、中長期では新規開発のコストは上昇を続ける。簡単に掘れる油田や鉱山はなくなり、より条件の厳しい場所を掘削しなければならなくなるからだ。開発企業は環境に負荷をかけないよう対策コストも強いられるようになった。一方、太陽光などの新エネルギーは技術革新によって右肩下がりにコストが下がり続ける。

原油市場では幾度となく、増え続ける需要が資源を枯渇させる「オイルピーク論」が登場し、それが市場の供給不安となって相場高騰に結びついた。しかし、現在の石油市場が気にするのは新エネルギーなどの技術革新が石油需要を減退させていく「もうひとつのオイルピーク論」だ。短期だけでなく、中長期でも原油相場は上がらないとす

る理由だ。

貴金属市場では本来金より高いはずのプラチナ（白金）が金より安くなる価格の逆転現象が長期化し、今夏にはその差が再び１トロイオンスあたり330ドル強に開いた。米株式市場ではＥＶ新モデルへの期待が膨らむテスラの時価総額が８月初め時点で５３５億ドル（約５兆９０００億円）まで拡大した。フォード・モーターはおろか、ゼネラル・モーターズ（GM）も抜き去って時価総額で「全米１位の自動車メーカー」にのし上がった。

テスラ株を買う投資家の心理には未来の自動車社会への期待がある。割安感に目をつけた日本人投資家の活発な投資にもかかわらず、プラチナ相場がなかなか反転上昇しない背景にも「自動車の排ガス触媒需要は以前の予想ほど増えない」という長期的な観測が強く影響しているのではないだろうか。

技術革新が崩す秩序と常識

技術革新は石油、自動車にかぎらず、これまでのさまざまな常識や秩序を破壊する。米アマゾン・ドットコムがけん引するネット消費の普及が既存の米小売り大手を次々と追い詰めるのがその典型だ。世界経済はＩＴ（情報技術）分野がけん引して基調を強めている。それと同時に、人工知能（ＡＩ）などの技術はさまざまな既存の産業を淘汰していく。米連邦準備理事会（ＦＲＢ）の追加利上げシナリオに立ちはだかる最大の障害は、景気が上向き、労働市場は逼迫しているのに物価が思うように上がらない現実だ。米商務省が発表する個人消費支出（ＰＣＥ）統計によると、ＦＲＢが利上げ判断で重視するＰＣＥ物価指数は８月も前年比で1.4％の上昇にとどまり、伸び率は４カ月連続で鈍化した。

足元で労働需給は逼迫しても、技術革新は「労働力を必要としない社会」を実現しようとする。小売りの現場だけでなく、工場でもＡＩを駆使したロボットが導入される。鉄道や運輸にも無人化の波は押し寄せる。企業はＡＩ分野などの先端技術者を積極的に雇用しても、無人化が進む分野の雇用は構造的に減り、結果として平均的な賃金は上がりにくくなる。ＦＲＢの追加利上げを阻むのも、これまでの常識が通用しない社会が目前に迫っているからにほかならない。

金相場がなかなか下げない理由は米国の追加利上げが遠のき、ドル安傾向が顕著になったからだけではない。国際社会における米国の指導力低下、中国や北朝鮮の脅威、中東情勢の混迷もすべてを説明できない。技術革新が古い秩序を壊していく中で、新たな秩序もまだ混沌としている不安が投資家を現物資産に向かわせている。折しも８月、代表的な仮想通貨であるビットコインは取引急増に対する解決策がまとまらず、新しい仮想通貨である「ビットコインキャッシュ（ＢＣＣ）」が誕生し、従来のビットコインと分裂した。インターネット上だけに存在し、取引される仮想通貨は決済の利便性向上に期待がかかる。金と同じ「無国籍通貨」の側面も持つ。

だが、今回の混乱は人間が作り出した仮想通貨のもろさも浮き彫りにした。それもイノベーションが古い通貨制度を壊していく過程で、新たな制度がはっきり見えない不透明感でもある。世界に新たな秩序が定着し、安定するまで金への投資は衰えそうにない。

金は浮気者

横瀬 久芳（よこせ ひさよし）

1990年、岡山大学にて火山学と地球化学を融合し学術博士を取得。その後、研究領域を海洋地域に広げ、海洋火山学を創設する。2000年から開始した海底火山の資源探査では、常識を破る浅海域からレアメタルに富む鉱石を2011年に発見。2013年秋、その模様が「NHKスペシャル」で特集された。著書には「ジパングの海～資源大国ニッポンへの道」（講談社＋α新書）や「はじめて学ぶ海洋学」等がある。

世界総産出量における金と白金は、それぞれ約18万トンと7千トン。金が白金よりも桁違いに多いのは御存知ですよね。この数字は、黄金の国ジパングに住む私たちにとっても納得がいくものです。しかし、隕石の平均値から推定された地球全体の金と白金の量比は、驚いたことに全く逆の1対7なのです。本来少ないはずの金が、なぜこれほどまでに採掘できたのでしょうか？

それは、金が世界共通の宝であり、その魅力に憑りつかれた人類が、一生懸命採掘に励んだ結果かもしれません。

あるいは、根本的に金は、白金に比べて地表を好むという性格がこの矛盾を生み出したとも考えられます。事実、他の元素に比べて金にはいろいろな鉱床タイプが存在していて、八方美人的な要素も垣間見られます。

そもそも金がたくさん集まって鉱床になるには、金はカチカチの岩石から移動する必要があります。そして実際、さまざまな溶液を次から次へと乗り換えて、地下深部から地表へ移動出来る金は、まさにドン・ファン的な資質の持ち主なのです。そんな金を人類が血眼になって採掘したのなら逆転劇もありそうですよね。

日本列島を含む環太平洋火山帯は、巨大な金山がひしめく第一級のエルドラド。この地帯に、どんな秘密が隠されているのか簡単に説明してみましょう。

日本のような沈み込み帯では、海水をたっぷりと吸収した海洋底が地下深部に持ち込まれます。そこで海水は岩石と反応し、以前と性格が異なる元海水として上昇します。その時、海洋底の金は元海水に言い寄って、上昇流に身を委ねます。この上昇流の旅は、火山の源となるマグマの発生源で終わりを迎えます。そこで地表を目指す金は、あっさりと元海水に別れを告げ、新たに出来たマグマに素早く鞍替えして、地表への旅を続けます。

そのようにして出来たマグマも、地下10ｋｍ位のところに終の棲家を作ります。マグマの熱によって、この棲家の周りには温泉となった地下水（海水）が元気よく駆け巡っています。そんな光景を眺めながら金は、冷えて動けなくなったマグマに別れを告げ、分離した仲間とともに若い温泉に最後の望みを託してさらに地表を目指すのです。

最終決断の局面において、酸性で塩辛いエネルギッシュな温泉を選んだ金は、アンデス山脈の鉱山タイプへ、一方、硫黄の香りがほのかに漂うおしとやかな温泉を選んだ金は、菱刈鉱山タイプへと分かれていきます。やがて、金自身の情熱も冷め、当初の目標であった地表近くで、孤独な自然金として身を固め、波乱の生涯に幕を閉じます。

浮気者の金は、自然金になるまでの間、多くの浮名を流したのかもしれませんね。

中東の人々が金に愛着を持つ歴史的背景

現代イスラム研究センター理事長
宮田 律（みやた おさむ）

1955年、山梨県生まれ。慶應義塾大学文学部史学科東洋史専攻卒。83年、同大学大学院文学研究科史学専攻を修了後、米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）大学院修士課程を修了。87年、静岡県立大学に勤務し、中東アフリカ論や国際政治学を担当。「ドバイの憂鬱」（PHP新書）、「オリエント世界はなぜ崩壊したか」（新潮選書）など著書多数。

ゴールドスークの店頭でウィンドウショッピングを楽しむ女性たち

イスラム世界の人々が金を重んずる傾向があることは、市場（アラビア語では「スーク」、イランのペルシア語では「バザール」）には必ず金の店の一画があり、そこに集まる人々の数の多さによってもうかがえる。中東イスラム世界では男の甲斐性は女性にいかに多くの金をプレゼントするかによっても測られるとも言われ、日本に来るイスラム教徒（ムスリム）たちは一様に京都の金閣寺を見て感動する。あるイラン人の女性と結婚した日本人の大学教授は、奥さんの母親を日本に招いたら、金閣寺が日本で観たものの中では最も感激したと語ったという。

イスラムの聖典である『クルアーン（コーラン）』、あるいはハディース（預言者ムハンマドに関する伝承）では、生きている間に善行を積んだ人が迎えられる楽園のイメージは、「楽園には香りのよい泉があり、川には清涼な水の川、乳の川、美酒の川、蜜の川がある。楽園の美酒は飲んでも酔わず、住人は黄金の腕輪を着け、絹や錦の緑の衣を着て、高座に身をもたせかける。黄金の皿や杯が回され、そこには各自の望むもの、目を喜ばせるものがある」とある（『岩波イスラーム辞典』）。

このようにイスラムの楽園の描写でも金の装飾品や用具が溢れ、現世において楽園の雰囲気を醸し出したいという感情から金を用いた刺繍や装飾品を愛好する傾向があり続けた。中東では金で身を飾る歴史は古く、古代エジプトで始まり、シュメール、バビロン、ギリシア、ローマでも行われてきた。イスラムでは現世において金を身につけたり、蓄えたりするのは贅沢と結びつくという解釈で慎重にすべきだとされているものの、神のために、つまり宗教活動に金を用いることは許容されている。

Gene W. Heck の “Gold Mining in Arabia and the Rise of the Islamic State” によれば、預言者ムハンマドの時代、アラビア半島には多くの金の鉱山があり、金など貴金属には20％の税金が課せられ、国家運営に役立てられ、金や銀の獲得によって初期イスラム国家の拡大は実現されたという。金は中東全域で採掘されてきたが、ギリシア神話のイアーソーンが金羊毛を黒海東部にとりに行く話は金が現在のトルコやカフカス地方で採れていたことをうかがわせている。

金貨をはじめとするイスラム世界の貨幣制度をつくったのはウマイヤ朝（661～750年）の第５代カリフ（預言者ムハンマドの後継者の称号）アブドゥルマリク（在位685～705年）で、ディーナール金貨、ディルハム銀貨、ファルス銅貨を発行した。このディーナール金貨はビザンツ帝国の金貨ノリスマをモデルにしたらしいが、皇帝の肖像などでなく、イスラムの宗教理念である文字が刻まれた。この貨幣制度の確立で金を基本とするローマ・ビザンツの地中海経済と、サーサーン朝（224～651年）の銀を本位とするイラク・イラ

丸屋根全体に80kgの金が貼られているという「岩のドーム」

ンの経済圏が融合することになった。

9世紀以降、銀が決済通貨であったイラク以東でも金貨が製造されるようになり、スーダン産の金貨を手にするようになった北アフリカのファーティマ朝（909～1171年）やムラービト朝（1056～1147年）では品質の高いディーナール金貨が流通するようになった。

金がイスラムの宗教活動と結びつくことは、メッカのカアバ神殿に黄金の扉があったり、またエルサレムのイスラムの聖地で、預言者ムハンマドが大天使のガブリエルに導かれて天国に昇った場所とされる「岩のドーム」の屋根に金箔が施してあったりすることにも見られる。「岩のドーム」の金箔は1993年にヨルダンのフセイン国王が820万ドルを寄付して張替えを行ったが、彼はロンドンにあった邸宅を売却して、80キログラムの金の費用にした。フセイン国王は彼のイスラムへの敬意を表したかったに違いない。イラクのバグダードにはアッバース朝（750～1258年）の首都が置かれたが、その中心には黄金門宮があり、カリフ（アッバース朝の王で、預言者ムハンマドの後継者を自任）の権勢やイスラム王朝繁栄の象徴ともなった。

イスラムの最も基本的な宗教行為は五行、つまり①信仰告白、②礼拝、③喜捨、④断食、⑤マッカ（メッカ）への巡礼だが、マッカ巡礼は経済的余裕があれば、人生のうち一度は行うように勧められている。マッカでは安く、品質が良く、さらに加工に優れた金を購入できる。マッカの大モスクの周辺には数十もの金の店があるが、毎年世界中から200万人もの人々が巡礼に訪れる期間は金を扱う店にとってはまさに「書き入れ時」となる。扱う商品もブレスレット、ネックレス、指輪、イアリング、ロケットなど多様だ。サウジアラビアで売られる金の装飾品は紅海に面した港湾都市のジェッダで加工、生産され、品質も良く、世界

初期イスラム時代の金貨ディナール

一の金製品という声もあるほどだ。

金は文字のインクにも用いられてきた。モスクなどでは「アッラー（神）」「ムハンマド（預言者）」など聖なる言葉が金によって描かれている場合が多い。神の言葉が集められたクルアーンはアラビア語によって書かれ、イスラムの普及とともに、アラビア語を使用する地域も広がっていったが、イスラム世界における書道の普及とともに、アラブの書道家たちは高位の政治家や宗教指導者たちのために宗教書物を金のインクによる書画で飾っていった。

ペルシアの画家たちはサーサーン朝など古代からの伝統を引き継いで細密画を盛んに描くようになったが、その絵の材料として貴重であったのは金とアフガニスタンで主に産出される青い貴石のラピスラズリであった。イスラム世界は現在スペインやポルトガルがあるイベリア半島にまで広がった。スペインのトレドには「ダマスキーノ」と呼ばれる文字通りウマイヤ朝（661 ～ 750年）の首都ダマスカスで生まれた工芸技術がある。黒地の鉄の皿に職人が鳥や花など絵模様を金や銀をほどこして彫金したもので、微細に彫金されたものほど高価になる。この彫金技術は「トレドの金」とも呼ばれるほど、その技巧は世界的に輝きを誇るものとなっている。

イスラムでは、投機的な行為は禁じられているが、それは労働することによって生計を立てなければならないという教えを背景にしている。現在、金投資はその利益がイスラムの宗教的義務の一つであるザカート（喜捨）に適切に用いられる場合に限って認められるようになった。こうした解釈によって、金はイスラム教徒が富を守るための資産とますます考えられるようになった。世界の金の調査広報機関であるワールド・ゴールド・カウンシルによれば、世界の金は中国とインドが消費の半分を数える。人口 12 億人ぐらいのインドの金の輸入量が毎年およそ 1000 トンぐらいだから人口 16 億人のイスラムの人々が金市場に参入すれば、金の需要がいっそう高まると見られ、さらに政府や中央銀行の関心も金に向かうことが予想される。ピュー研究所（アメリカの調査団体）によれば、この世紀の終わりまでにイスラム人口はキリスト教人口を抜き、世界最大の宗教人口となる。インドネシアやマレーシアなどアジアのムスリムが経済力を蓄えれば、金の需要はさらに増すことだろう。

金への関心が拡大していくことは、本論で見てきた通り、その背景としてイスラム世界に伝統的にある金を重んじる文化・芸術、金への憧憬などを見れば明らかだ。中東では資源が枯渇した時代を見据えた経済運営も考えられるようになり、また中東で紛争や政治的混乱がある中で「実物資産」としての金を重視する傾向が強まる可能性は高い。

2017年 協会主催講演会（抄録）

2017年3月22日（水）、日本工業倶楽部会館二階・大会堂にて協会主催講演会を開催いたしました。スピーカーに大和証券投資戦略部情報課担当部長の野間口毅（のまぐち・つよし）氏、金融・貴金属アナリスト亀井幸一郎（かめい・こういちろう）氏のお二人をお招きし講演して頂きました。会場には協会正会員、全国の登録店、賛助会員、並びに業界関係者各位まで、総勢200名の皆様が列席されました。ここにエッセンスを再録いたします。

第１部

内外経済と株式市場の見通し ～日本経済の再浮上は可能か？～

大和証券投資戦略部 情報課担当部長　野間口 毅 氏

６つの視点から日本経済の再浮上について検証。（1）トランプ政権：目指す政策がいまだ見えにくいものの、減税にしてもインフラ投資にしてもゼロ回答はないだろう。（2）米国景気：今年の米国景気は堅調。そこにトランプ政策の効果が加われば 2018 年から米国景気は加速する可能性あり。（3）円安効果：米国景気にプラス効果が出れば、東京市場では円安による企業業績の回復期待が醸成され株高要因となろう。（4）日経平均：米国景気が加速しドル高円安が進んだ場合 2017 年の日経平均は 23,000 円にチャレンジする可能性も。（5）リスク要因：2017 年のリスク要因は、欧州政治リスクの台頭、中国人民元ショック再来の可能性、原油市場の供給過剰状態の継続。（6）日本の構造改革：大企業の業績は向上している。その反面、実質賃金は上がっていない。ゆえに個人消費は出遅れ気味。構造改革を進めることで中小企業の業績、地方の経済を改善させることが課題。米国の保護主義に対する懸念は残る。

第２部

流動化する国際情勢 その中での貴金属市場

マーケット・ストラテジィ・インスティテュート代表 金融・貴金属アナリスト　亀井 幸一郎 氏

貴金属市場の動向に影響を与えているものに、今年の大きなテーマである政治リスクや地政学リスクによりもたらされる「不確実性」がある。英国の欧州連合（EU）離脱や自国第一主義を掲げる米トランプ政権の政権運営リスクから複数の欧州主要国で予定されている選挙など、世界は先行きの不透明感に覆われている。これらの不確実性は数値化が出来ないことから、ヘッジが難しい。こうした環境に強い資産として金が注目されている。

今年は米連邦準備理事会（FRB）が３回の利上げを予定するなど、欧米では金融環境も引き締め方向に進むと見られているが、物価が上がり難い環境が続いており年後半は不透明さが残る。一方で、日本銀行の年間 80 兆円を目標にした国債買取りを中心にした量的緩和策は、落としどころがまったく見えない状況にある。日本では政治よりも、この日銀の金融政策の方向性が不確実性の際たるもので、不測の事態にそなえ、やはり金保有が通貨分散の観点からも必要と思われる。

我が社の宝物 vol.01

石福金属興業株式会社 古宮誠一会長に聞く

金煙管

1964年に加波山神社に奉納された、長さ2.6m、雁首の径25cm、吸口の径5cm、重さ60kgの真鍮と銅でできた日本最大の巨大煙管。祭りの際には、拝殿から300mほど登った「たばこ神社」まで、男衆によって担ぎ上げられる。

今回から「我が社の宝物」と銘打った新シリーズを展開いたします。第一回目は、石福金属興業の前身にあたる「村田文六商店」から続く商いであった、煙管（きせる）を取り上げます。

ご存知の方もいらっしゃると思いますが、当社は、先代である私の父が若いころに徳力本店様で修行させていただいた後に、1930年に創業した会社です。それまで私の家は、「村田文六」という屋号で江戸時代から約250年にわたり、煙管の製造販売を営んでいました。

私は1934年の生まれで、戦後復興期は10代でした。今では考えにくいでしょうが、当時、煙草（たばこ）は貴重品でした。途中まで吸って捨てるような、そんなもったいないことをする人は誰もいません。フィルターがついていない煙草を口元のところまで残らず吸うため、途中から楊枝を使って最後まで吸っていました。ですから、戦時中販売をやめていた煙管の販売を再開しますと、大勢のお客さまが煙管を求めて店頭に並んでくださいました。子どものころに見たその光景は、今でも脳裏にはっきりと刻まれています。

しかし、戦後復興が順調に進み、1950年代後半になると、フィルターつきの煙草が流行をみせるようになり、終戦直後に人気の出た煙管の需要は減退してしまいました。ちょうどその頃、職人技の伝承が困難になり始めたことも重なり、煙管の廃業を考えていた矢先、思わぬ話が舞い込みました。茨城県の加波山神社（たばこ神社）の宮司が来訪され、「神社のシンボルとなる煙管を奉納

一般的な煙管。「羅宇煙管」と呼ばれる。

看板のモチーフとなった「手綱形金煙管」。

してもらえないか」という申し出があったのです。毎年、周辺の煙草栽培農家のために豊作祈願をおこなっているとのことで、先代も宮司の農家を思う気持ちにこたえて、日本一巨大な煙管を製造して寄付させていただきました。そして、この加波山神社への奉納をもって、当社は煙管の製造販売に幕を引きました。

左上の写真の煙管は、雁首と吸口が金や銀でできており、それらをつなぐ管は「羅宇（らう）」と呼ばれ、竹で作られています。「羅宇」の由来には諸説あるようですが、ラオス産の竹を用いていたことから、そう呼ばれていたそうです。もちろん、高級な煙管には、雁首・管・吸口のすべてが貴金属でできているものや、彫刻やデザインがほどこされているものもあります。また、「女持ち（めもち）」と呼ばれる女性用の煙管もあり、過去には映画や歌舞伎の小道具としてお貸ししたこともありました。

所有する煙管の中から、あえて 1 点を選ぶとすれば「手綱形金煙管」になるでしょうか。このねじれたフォルムの煙管は、当社の旧社屋の看板にも、また、「村田文六商店」の看板にも描かれています。これこそ煙管が我が社のルーツであり、宝物であるゆえんです。

「手綱形金煙管」の描かれた看板の前に立つ古宮誠一会長。石福金属興業の社章（文）は「村田文六商店」に由来する。

進化する金需要大国～インド

この記事は、ワールド・ゴールド・カウンシルが2017年１月に発表したレポート「インドの金市場：進化と革新」に主に依拠している。

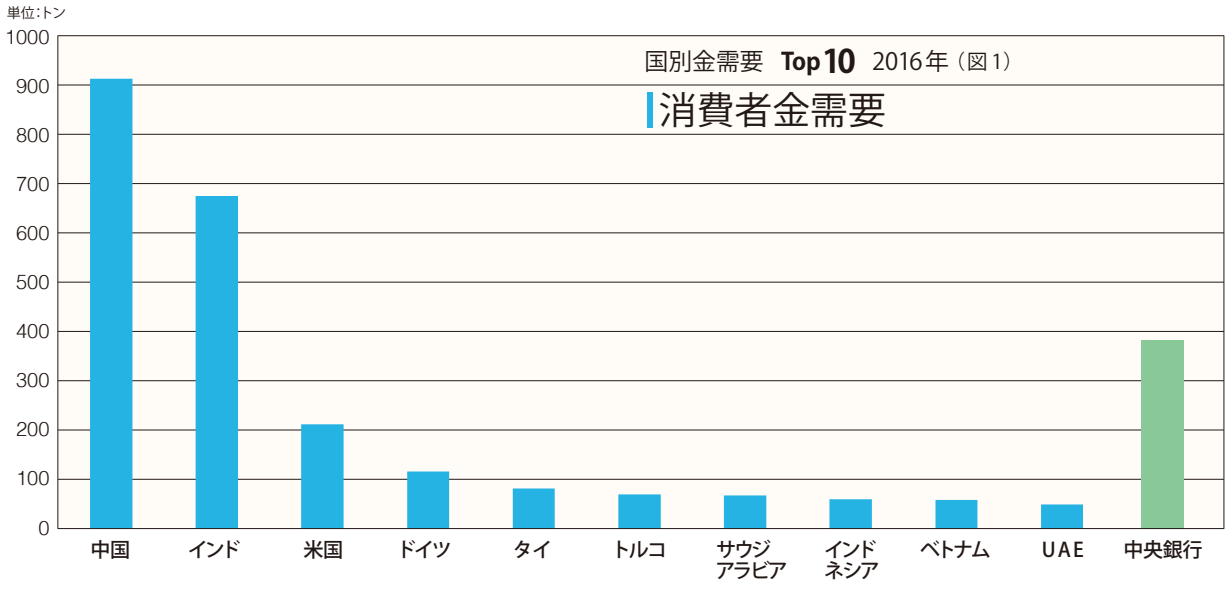
ワールド ゴールド カウンシル
顧問
森田 隆大（もりた たかひろ）

近年、インド金市場は規制に影響され、成長は停滞しているものの、中国に次ぐ世界第２位の需要国の地位（図１参照）は不動である。インドの消費者は 23,000 ～ 24,000 トンの金を保有していると推定され、地上に存在する金（186,790 トン）の約 12.5% を占めている。 ヒンズー教において金は富と繁栄の象徴であることを主背景に、金は生活の一部に溶け込んでおり、婚礼、誕生日、宗教行事、収穫などの祝い事に欠かせない存在となっている。それゆえ、都市部から農村部に至るまで、年寄りから若年層に至るまで、多くのインド人が年間を通して金と密接に関わった生活を送っている。

しかしながら、成長するインド経済は金市場に変化をもたらしている。インドでは、毎年、数百万の人々が農村部から都市部に流入している。それに伴い、経済における農業の役割も年々低下している。また、一人当たりの国民所得の上昇に伴い、中間層が急激に増加している。さらに、携帯電話の保有率が急速に上昇し、昨年末で 11 億超の契約者を持つ世界第２位の市場に成長している。若い世代の生活観および世界観が伝統的な考え方から乖離してきていることも無視できない変化である。こうした傾向が、当然のことながら、金の需要構造にも影響を与えている。

金市場に対する政府方針の変化も、金需要に影響をもたらす。金は石油に次ぐ最大の輸入品目であり、構造的な貿易赤字をもたらす要因の一つである。そのため、金需要の抑制は常に政府が意識する政策問題の一つである。一方、金に対する国民の愛着が衰えず、ここ数年に導入された様々な施策が、期待どおりの政策効果を得られず、単に金需要の低迷を招いたとの批判も聞こえてくる。最近、インド政府は需要抑制から金を経済・金融システムに取り込むなど、より包括的な政策に方向転換している。

2016年に行われた廃貨政策（高額紙幣が対象）や 2017年に導入された物品・サービス税（金も



対象：3%）のような経済全体を対象とした政策も金需要に影響を与えている。こうした政策の目的は、現在のキャッシュ・ベース経済を、より透明性が高いデジタル経済に移行させることである。インドの金市場のチャレンジの一つは、グレー市場（適切な手続きに基づかない取引）の存在である。インド経済が透明性の向上に突き進むなか、金が主要資産としての地位を維持するためには、市場の近代化は避けられない。

環境が変化する中、インドの金需要は今後どのように推移していくのか、そのヒントとなる情報や分析を以下にまとめた。

1 過去データ（1990～2015年）の分析から、長期金需要を決定する最大の要因は国民所得レベルであり、所得が1％上昇すると金需要が1％増加する。また、金需要に影響する短期要因として、インフレ率、金価格、雨量（モンスーン・シーズンの雨量は農村部の収穫・収入に影響するため）などが挙げられる。具体的に、1％のインフレ率上昇は2.6%の金需要増、1％の金価格上昇は0.9%の金需要減、1％の雨量増は0.5%の金需要増をもたらす。

2 インド経済は世界トップクラスの成長を見せており、国民所得レベルも引き続き引き上げられると見込まれる。国際通貨基金（International Monetary Fund）の予想によると、インドの一人当たりの国民所得は2015年から2020年の間に35%成長する。また、インド応用経済研究所（National Council of Applied Economic Research）は、2025年までにインドの中間層が倍増して5億人を超えると分析している。金需要を支える潜在力は極めて高いと言えよう。

3 金は引き続きインド文化・伝統の中に深く生きており、2016年にワールド・ゴールド・カウンシルが外部機関に委託して行った消費者調査では、72％の回答者が金宝飾品を保有している（中国は70%、米国は59%）、55%が過去12ヶ月に金を購入したと答えている。また、半分以上の人は、これから12ヶ月の間に金宝飾品を購入する予定があると回答している。金地金・コインについても、多くの投資家が安全資産と考え、銀行預金とともに好ましい貯蓄手段として選好するとの調査結果が報告されている。

4 インドにおいて、金購入目的の筆頭に来るのは婚礼用である。やがて結婚を迎える25歳以下の人口が5億人いることを考えると、インドにおける金宝飾品に対する潜在需要は高い。また、金宝飾品は、装飾と投資目的の両方で保有されるため、多くのインド人は22Kのものを好んで購入する。さらに、嫁ぐ女性にとって将来の非常時に対する備えとしての意味を強く持つ婚礼用のものは、相対的に質量が高い（図2参照）。

■インドの目的別金宝飾需要（図2）

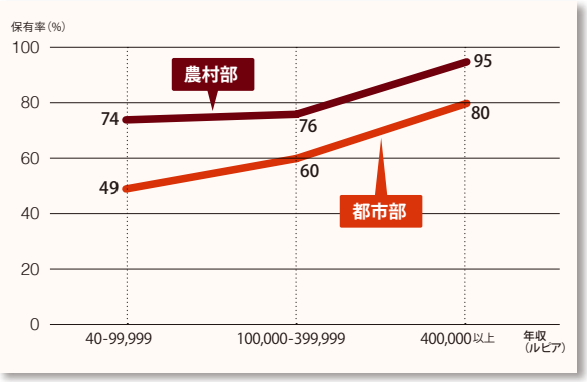
	婚礼用	日常用	ファッション用
金宝飾品需要に占める割合	50-55%	35-40%	5-10%
重量	30-250g	5-30g	5-20g

出所: India's gold market: evolution and revolution, January 2017, World Gold Councilより作成

5 インドでは、都市部より農村部、また、所得レベルが上がるほど金保有率が高くなる傾向にある（図3参照）。さらに、農村部は宝飾品を、都市部は金地金・コインを投資対象として好む傾向があり、金装飾品に対する好みも異なる。農村部ではシンプルなもの、都市部では宝石を嵌めた金製品が人気である。ワールド・ゴールド・カウンシルが外部機関に委託して行った2015年の調査では、シンプルな金装飾品が農村部需要の88%を占めたのに対し、都市部では57%（35%が宝石付き金製品）にすぎない。属性によって消費者の好みが異なるため、農村部から都市部への大規模な人口流入は、金に対する需要の形を変化させる可能性が高い。

6 金への接し方も、世代によって異なる。農村部では金に対する親近感は世代を超えて強いものの、都市部の若い世代については低下傾向にある。ワールド・ゴールド・カウンシルが外部機関に委託して行った調査において、「もしも50,000ルピアをもらったら何に投資するか？」との問いに対して、18～33歳世代の33%、34歳以上世代の42%は金に投資すると答えている。33%は他国に比べてかなり高い数字ではあるが、デザイナー服飾やスマートフォンなどへの支出増が若者世代からの金需要にマイナスの影響を与えていることは明らかである。金宝飾品業界は対応策を取り始めているが、若い世代にとって魅力ある商品の開発やウェブ・ベースの取引チャンネルなど、潜在需要を取りこぼさないための体制整備をさらに進める必要がある。

■インドの所得別金保有率（図3）



出所: TNS; World Gold Council ～ India's gold market: evolution and revolution, January 2017, World Gold Councilより作成

7 消費者は金宝飾品や地金を売却することより、それらを担保にして資金調達することを好む。現在、約1,250トンの金が担保として使用されているが、多くは質屋などで、貸金業を専門とする金融機関と取引されているのではない。金を担保にした資金調達はインド社会に根付いているため、その規模はさらに拡大すると思われる。しかし、政府が金融機関との取引を奨励しているため、今後、質屋などが活躍する場が減少し、銀行やゴールド・ローン会社の市場占有率が上昇すると予想される。

8 インドでは、385,000～410,000の金宝飾業者が事業を行っているが、そのうちの約70%が、組織形態をもたない零細企業や個人である。2000年から2015年の間、全国または地域販売チェーンを持つ企業の市場占有率が5%から30%へと大きく伸び、2020年にはその比率が35～40%まで上昇すると予想される。近代オペレーションを持つこうした企業の台頭は、加速する消費者ニーズ（特に若い世代）の変化に

対応する上で極めて重要であり、金需要の維持・喚起に欠かせない存在である。

9 大規模小売業者の進出に伴い、金宝飾加工・製造業界の構造も変化している。インドでは、今でも 65% 近くの金製品は零細企業によってハンドメードされている。大規模加工・製造業者は 10年前にはほぼ存在しなかったが、現在では 5 ～10% のシェアを占めるようになり、この傾向は加速的に進行すると予想される。台頭する大規模小売業者が要求する質や量に、零細加工・製造業者が十分に対応できない可能性が高いからである。

10 インドの金需要の 85% は輸入によって供給されている。 輸入されたドーレ（純度 90％程度の半製品）などの中間品を金製品の生産に適した形に加工する精錬業者は、重要な役割を果たしている。近年、インドの精錬業界が飛躍的に成長し、工場数も 2013 年の 3 ～ 4 から 2015 年の 30 まで増加しており、その精錬能力は 1,450トンに達し、インドの年間金総需要を大きく超えている。精錬を行うドーレやリサイクル品の入手が困難なため、現在、多くの生産能力が使用されず、解決を待つ構造問題となっている。

11 インド政府がこれまでに導入した多くの金市場に対する規制は、必ずしも政策目的を達していない。例えば 2013～ 2014 年に導入された、金を輸入すればその 20% を再輸出することを義務づける、いわゆる「80:20 規制」は、その複雑なルールによって市場に混乱をもたらした。現地金価格も国際価格から 100米ドルほど上方に乖離し、密輸の増加を誘発した。結果的に、「80:20 規制」は輸入を制限する政策目的を果たせず、むしろ金をブラックマーケットに近づけたとの批判を招いた。

12 インド政府は最近、金を積極的に経済・金融システムの中に取り込んで、その有効利用によって政策課題である金輸入を抑える施策にシフトしている。例えば、2015 年に導入された「金の金融化スキーム（Gold Monetisation Scheme= GMS）」は、消費者や企業が保有する金を利息が付される指定銀行の金口座に預け入れることを奨励、そこに取り込まれた金を金業界に素材として貸付・還流することで、輸入量を抑制することを目的としている。スキームの導入時から現在までの取引量は 10 トン以下にすぎず、大きな成果を上げていない。インドにおいて、有効な金市場に対する規制を打ち出すことの難しさを改めて浮き彫りにした。一方、金市場に対する現在の政府方針は、過去の政策に見られるような、金需要に大きな混乱をもたらす危険性は低下している。

以上のように、インドの金需要は短期的に様々な要素・規制・構造変化によって影響されるものの、社会における金の役割が引き続き高いことを背景に、国民所得レベルの上昇に伴う中間層の増加によって長期的に上昇すると予想される。ワールド・ゴールド・カウンシルは、2020年までに、インドの金総需要は年間 850 ～ 950トン、地金・コイン需要は年間 250 ～ 300トンに達すると予測している。

2016年世界の金の供給と需要

2016年の金市場は多くの点で、2013年の金市場の鏡像であったとみなすことができる。2013年には金融危機が緩和しつつあるとの見方を受けて、ETFでの売りが見られ、西半球の地域の投資家が急速に金投資から撤退した。しかし、2016年には地政学的な不透明感の高まりにより、同じ西半球の地域の投資家が広範囲にわたって金投資に回帰。その証拠としてETFの金保有量が2009年以来の最大となる524トンの増加を記録した。他方、中国では、2013年にはそれまで旺盛であった金購入に一服感が見られたが、2016年には景気低迷によって宝飾需要が低調だったものの、人民元に対する懸念を受けて金地金投資が増加した。インドでも、政府による不透明な資産に対する厳しい取り締まりや現金経済からの脱却の動き、宝飾業界のストライキによって、金の宝飾需要が低迷した。今年はこの両大国の見通しがかなり明るくなっているが、インドの場合、物品・サービス税の性格が明確になるまでは不透明感が払拭されず、中国の経済動向も依然として不透明である。

今年は、世界の鉱山生産量が減少する一方で、需要が徐々に回復するため、2016年と比べて供給過多は縮小するが、依然としてかなりの水準になると予想されている。特に政治的背景を考えると、少なくとも目先は、投資家心理が引き続き金価格と今後の価格動向を大きく左右するであろう。西半球の投資需要はこのところ非常に変動が大きく、金相場は2017年の年初に反発し始め、2016年の下落分をやや取り戻している。もっとも、金価格のさらなる上昇には、米ドル相場が引き続き足かせとなるであろう。実際、3月初旬には、米国の景気回復予想、「トランプフレーション」とそれに伴う米連邦準備制度理事会への利上げ期待によって金価格が下落し、金相場が依然として脆弱であるという事実が証明された。

◆世界の金の供給と需要の推移

単位：トン

		2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
供給	鉱山生産量	2,538	2,467	2,651	2,775	2,868	2,883	3,077	3,172	3,209	3,222
	中古金スクラップ	1,029	1,388	1,765	1,743	1,704	1,700	1,303	1,158	1,172	1,268
	正味生産者ヘッジ	-432	-357	-234	-106	18	-40	-39	108	21	21
	供給合計量	**3,134**	**3,497**	**4,182**	**4,411**	**4,590**	**4,544**	**4,341**	**4,438**	**4,401**	**4,511**
需要	宝飾品	2,474	2,355	1,866	2,083	2,091	2,061	2,610	2,469	2,395	1,891
	工業用加工量	492	479	426	480	471	429	421	403	365	354
	エレクトロニクス	345	334	295	346	343	307	300	290	258	254
	歯科・医療	58	56	53	48	43	39	36	34	32	30
	その他の工業用	89	89	79	86	85	83	85	79	76	70
	公的部門の正味需要	-484	-235	-34	77	457	544	409	466	436	257
	小口投資	448	937	866	1,263	1,616	1,407	1,873	1,163	1,162	1,057
	金地金	238	667	562	946	1,247	1,056	1,444	886	876	787
	コイン	211	270	304	317	369	351	429	278	286	271
	現物需要	**2,930**	**3,536**	**3,125**	**3,903**	**4,635**	**4,441**	**5,314**	**4,501**	**4,357**	**3,559**
	現物の過不足	**204**	**-38**	**1,057**	**508**	**-45**	**102**	**-973**	**-62**	**44**	**952**
	ETFの在庫構築	253	321	623	382	185	279	-880	-155	-125	524
	取引所の在庫構築	-10	34	39	54	-6	-10	-98	1	-48	86
	ネットバランス	**-39**	**-394**	**394**	**73**	**-224**	**-167**	**5**	**92**	**217**	**342**
金価格（LBMA 午後、米ドル/オンス）		**695.39**	**871.96**	**972.35**	**1,224.52**	**1,571.69**	**1,668.98**	**1,411.23**	**1,266.40**	**1,160.06**	**1,250.80**

出所：GFMS、Thomson Reuters　※各項目を四捨五入しているため、合計と一致しない場合があります。
正味生産者ヘッジは鉱山会社のゴールドローン、フォワード・ポジション、オプション・ポジションが現物市場に与える影響の推移を示しています。

（コメントは、GFMS GOLD SURVEY 2017日本語ダイジェスト版より抜粋）

しかし、年が進むにつれて、米国もしくは欧州の政治動向またはこの双方が支援材料となり、安全な投資先を求める資金が金市場に流入する可能性は高まるであろう。欧州諸国のいずれかの選挙が反EUを支持する結果になれば、ユーロの今後を巡って不透明感が高まる一方で、トランプ大統領の型破りな政治手法が投資活動を支える可能性もある。市場は、米国の株式相場が続伸するか否かについても過敏になっており、金相場はリスク回避指向からも恩恵を受けると予想される。われわれは2017年の金価格が平均で1,259ドル/ozとなり、2018年以降の金価格上昇の基礎を築くと予想している。

■供給のポイント

――2016年の鉱山生産量は前年比0.4％（14トン）増と、極めてわずかな増加にとどまった。

――2016年のトータルキャッシュコストとオール・イン・サステイニング・コスト（AISC）はいずれも2%低下して、それぞれ630ドル/ozと818ドル/ozとなった。

――ドル建て金価格の上昇により利食いが促され、世界全体の中古金スクラップ供給量は2016年に1,268トンに達し、8％もの急増となった。

■需要のポイント

――2016年の現物総需要は前年比18％減となり、3年連続で減少した。主因は宝飾品加工量の大幅な減少にあったが、いずれの部門でも需要は減少した。

――宝飾品加工量は21％減の推定1,891.5トンになり、2009年以来の最低水準まで落ち込んだ。

――工業用加工需要は2016年に前年比3.2％減の推定353.8トンとなった。背景には、エレクトロニクス部門において安価な代替材料への移行がさらに進んだことや、価格面の理由から歯科部門やその他の工業用需要ならびに装飾需要が減少したことがあった。

――確認可能な投資需要は2016年に4年ぶりの高水準となる1,579トンまで急増した。この需要を支えたのは上半期を中心とした極めて旺盛なETFの買いであった。

――公的部門の正味購入量は2016年にかなり減少し、257トンとなった。主因は、中国の購入量が減少したことにあった。

◆日本の金の供給と需要の推移

単位：kg

		2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
供給	新産金	145,535	80,983	87,118	93,152	86,687	66,311	53,136	57,797	74,777	76,084
	再生金	36,885	39,127	18,409	16,193	18,931	18,195	14,033	14,113	17,891	18,265
	輸入金	12,178	10,890	4,833	1,596	1,518	2,212	8,373	987	3,980	1,040
	国内流通（受入−払出）	14,332	60,099	17,791	11,020	23,740	51,606	51,432	28,055	90,913	202,698
	供給合計量	**208,930**	**191,099**	**128,151**	**121,961**	**130,876**	**138,324**	**126,974**	**100,952**	**187,561**	**298,087**
需要	消費者需要	186,888	137,514	87,841	97,110	77,200	70,135	48,109	45,482	44,964	45,878
	電気通信機器・機械部品用	125,165	84,903	54,979	60,868	46,649	38,364	28,466	27,462	26,756	27,770
	歯科・医療用	12,039	11,731	10,354	9,784	8,300	8,893	7,982	7,648	7,988	8,516
	メッキ用	22,276	13,836	4,798	5,596	2,718	3,703	2,305	1,551	2,390	2,366
	消費者需要その他	27,408	27,044	17,711	20,862	19,534	19,175	9,355	8,821	7,829	7,226
	準消費退蔵	29,010	28,530	21,483	23,396	32,453	21,673	18,473	13,082	9,102	12,485
	宝飾用	23,121	22,423	16,264	20,038	15,395	11,021	9,036	7,394	7,220	8,697
	美術工芸用	1,411	1,209	1,018	1,049	946	846	841	981	1,056	999
	メダル用	752	484	692	383	248	181	29	453	68	159
	準消費退蔵向けその他	3,726	4,414	3,509	1,926	15,865	9,625	8,566	4,254	759	2,630
	私的保有（退蔵−退蔵放出）*	-65,257	-50,637	-27,542	-36,353	-52,208	-7,468	1,546	-6,287	11,556	13,676
	退蔵（＋）	36,287	69,446	47,471	44,249	50,423	38,352	56,546	35,599	40,688	36,319
	退蔵放出（−）	101,544	120,083	75,014	80,602	102,631	45,820	55,000	41,886	29,133	22,643
	計	**150,641**	**115,407**	**81,782**	**84,153**	**57,445**	**84,340**	**68,128**	**52,277**	**65,622**	**72,039**
	輸出	63,923	77,739	46,083	39,997	66,284	64,201	60,894	71,481	120,495	224,837
	需要合計量	**214,564**	**193,146**	**127,865**	**124,150**	**123,729**	**148,541**	**129,022**	**123,758**	**186,117**	**296,876**

出所：経済産業省「貴金属流通統計調査」　※各項目を四捨五入しているため、合計と一致しない場合があります。

*「退蔵」とは個人の現物購入、「退蔵放出」とは個人の現物売却を指します。ここでは売買の動きを示す観点から両者ともプラス表示とし、その差分を「私的保有（退蔵 − 退蔵放出）」として表しています。

変わるニーズ
「自分用」から「受け継ぐ」ジュエリーへ 格上のプラチナ志向

プラチナ・ギルド・インターナショナル株式会社
代表取締役社長
ハンキンソン 尚子（はんきんそん ひさこ）

プラチナ・ジュエリーの国際的な広報機関であるプラチナ・ギルド・インターナショナル（PGI）は 2016 年 4 月、母親世代に特化した消費者意識調査を実施しました。ジュエリーの消費を牽引している 55-74 歳女性に宝飾品全体やプラチナ・ジュエリーに対する考えを聞いた結果、予想以上にプラチナ・ジュエリーに対する想いがこの層の中に存在していることがわかりました。

2016 年 4 月調査

調 査 対 象	東京在住　有識者／主婦
グループ A	55-64 歳 世帯収入 600 万円以上
グループ B	65-74 歳 世帯収入 300 万円以上

撮影：石田 祥平

身に着けて日常を楽しみたい格上のプラチナ・ジュエリー

グループAB共にプラチナがジュエリーとして一番高い位置付けで、価値を強く認識していました。プラチナには「格上、聡明、エレガント、女性らしい優しさ、落ち着き」、イエローゴールドには「アグレッシブ、顕示欲、元気」といったイメージを持ち、中には「ロイヤルファミリーのティアラで金を見たことがない」（グループB）といった発言もあり、プラチナが格別な素材であることが強く表れていました。

宝飾品全般ではグループAの方がBや若い年齢層より購買予算が大きく、AB共に「輝きで顔を明るくしたい」等の理由からやや大ぶりなジュエリーの購入を希望されています。

プラチナ・ジュエリーを入手する機会はAB共に「節目の記念」とするのが最も多かったのですが、実際の購買のきっかけは「ピンとくるものに出会った時」としている人が多く、表の理由と実際の購買のトリガーとなるものにズレがあります。この「ピンとくる」の背景にある心理にはAB共通する部分があり、それはプラチナ・ジュエリーを身に着けると「よそ行きの気分にさせてくれる」といった高揚感です。それに加え「レストランで良い席に案内される」や「万一の際に病院の搬送先や対応が違う」といった意見もあり、ジュエリーのなかでも格上のプラチナに対する信望が実用的なところまで出ていることが窺えます。こうしたイメージと自身の感性にマッチしたプラチナ・ジュエリーに出会えた時が、最も購買に結びつくタイミングとなっているのがこの年齢層の特徴といえるのかもしれません。

グループAB共通してプラチナの変わらない価値への強い信頼感が根底に見られます。それは価値あるプラチナ・ジュエリーを身に着ける自己満足にとどまらず、元気が出る御守りのように喜びと安心感が与えられ、タンスに仕舞い込むのではなく、身に着けて日常を楽しみたいとする傾向があるのもこの世代の特徴となっています。

一世代から第二、第三世代の消費へ

55-74歳という年齢から、自分が欲しいものや似合うものを自分で選んで買うことに自信を持つ人が多いと同時に、既に「十分持っている」という満腹感も見られます。が、その中に愛情表現として「あげる喜び」という自己満足を刺激する事で購買を広げる伸びしろの存在が、この調査から見えてきました。

日本は母娘の絆が強い国だと言われていますが、調査でもその傾向が見られるものの、グループ間の差も見られます。「プラチナは愛と絆の証」というキーワードに対して、グループAは今現在の娘への特別な思いやりのしるしとして捉えているのに対して、グループBは子供や孫に継承することで「自分が生きた証を残したい」という気持ちが強く見られます。

変わらない価値のプラチナは結婚時の変わらない気持ちを象徴するだけでなく、変わらない母娘の気持ちの証ともなるものです。「本物だからこそ母から自分に、自分から娘に、母としての証と思い出をつないでいく意味で自分も与えたい」という想いに応えることができるのがプラチナ・

ジュエリーです。自分へのご褒美やギフトの選択肢が多い時代だからこそ、肌身に着用する最もパーソナルなジュエリーを母から娘に受け継いでいく喜びをもっと広めてゆくことができるでしょう。

母娘が一緒にショッピングする姿が珍しくない近年、好みが違うからこそ、将来娘に託せる自分用のジュエリーや、娘の節目といった記念にジュエリーを宝飾店で一緒に選ぶ喜びを提案したいと思います。これは、自分で買うよりプレゼントとして入手したいと考えている近年の 20-30 代の女性のニーズにもマッチします。ジュエリーへの関心が薄らいでいる娘世代に宝飾店に入るきっかけを作り、また母との思い出というプラスな印象も強めることにもなります。そうすることで一世代の消費から二世代、三世代の消費へと膨らませることができるのではないかと考えています。

ロンドンプラチナウィーク2017 「プラチナ・ジュエリー・ビジネス・レビュー」報告

今年 5 月ロンドンに PGI の各国代表者が集まり「プラチナ・ジュエリー・ビジネス・レビュー」を開催しました。これは主要 4 か国（日本、中国、インド、米国）で 2 万 2 千店以上のジュエリー小売店舗から直接聞き取りを行なった宝飾小売業動向調査をもとに各国代表者が発表したもので、2016 年のプラチナ・ジュエリー市場のデータと 2017 年の予測が示されました。

日本市場概要

プラチナ・ジュエリーの販売は 2016 年宝飾品全体と比べ好調だった。金額、個数共にイエローゴールドやホワイトゴールドを上回り、小売りベースの販売量は 2％増の 16.7トンで 4 年連続の増加となった。これには以下 3 つの要因があげられる。

①プラチナに強いこだわりを持つシニア富裕層の消費に支えられ、プラチナ・ジュエリー販売個数の 64.4％を占めるノンブライダル部門が健闘したこと。

②ノンブライダル部門でプラチナ使用量がより多い製品、特に地金のみのキヘイチェーンやピンズ、タイバー、カフス等その他のカテゴリーの比率が増加したことから、重量ベースで 2.6% 増加したこと。

③ブライダル部門でホワイトゴールドからのさらなるシェア獲得と、男性用結婚指輪の販売微増から、重量ベースでの販売量が 0.3％増加したこと。

日本でもともと強いプラチナ・ジュエリーへの嗜好がわずかながら再強化されたことに加え、重量ベースでより多くのプラチナを使用する商品が増えたことから、販売個数の低下にも関わらず、総合的な販売量は 2％増加した。

なお、リサイクルプラチナについては、日本のプラチナ宝飾需要の 90％は新しい地金が求められている。これはリサイクルプラチナの残留合金

が、製造及び品質管理上の問題となるためである。またプラチナのリサイクル量は 2011 年をピークに減少傾向にある。

2017 年は国内需要と輸出の機会をさらに促進することで、小売販売におけるプラチナ消費量は 5 年連続で増加の見通しである。

各国概要

宝飾業界全体としては、2016 年は主要 4 カ国において多くの課題に直面した厳しい年だった。一部の構造的な要因もあれば、周期的な傾向による影響もあった。その影響を最も強く受けたのがゴールドで、プラチナへの影響は微細なものであった。

米国では、プラチナ地金の低価格化がメーカーや小売店の製造・販売意欲を促進し、全体で 5.4% 増となった。

中国では、全般的な経済の減速とともに、消費者嗜好の変化や競争拡大が宝飾業界にマイナスの影響を及ぼした。その結果、全体で小売需要は 8.3％減少した。

インドにとっての 2016 年は、洪水やジュエリー小売業のストライキ、廃貨など次から次へと課題に見舞われた一年であった。しかしプラチナ・ジュエリーは、その情緒的な存在価値や、若者世代からの強い支持、利益率の高さ等に後押しされ、確固たる需要があった。全体としてプラチナ・ジュエリーの小売販売は 11.4% 増加した。

2016年世界のプラチナの供給と需要

2016年のプラチナ鉱山生産量は188トンとなり、2%と控えめながら減少した。原因は、南アフリカの5大鉱山の総生産量が減少したことにあった。生産に混乱を来たさなかった鉱山はほとんどなかった。減産の背景には休業や操業停止に加え、プラチナ価格の低迷を受けた不十分な資本配分があった。高コストのシャフトの閉鎖やランド安によって総合生産コストが9%低下し、PGM生産業界のEBIT（利払前・税引前利益）は前年比で104%も増加して10億900万ドルに達した。このコストの低下により、採算割れの生産比率は30%となり2015年の33%から改善した。

2016年には、ドル建てプラチナ価格が6%下落したにもかかわらず、中古プラチナ宝飾品からのスクラップ供給量は前年比5%と、わずかながらも増加して、推定17.9トンとなった。3年連続となったこのような緩やかな増加の主因は中国の動向にあった。同国では、売れ残った宝飾品在庫が再溶解のために回収されたことから、中古宝飾品回収量が15%も増加して過去最高水準に達した。中国以外のスクラップ供給量は、プラチナ価格の下落によって減少し、日本と北米では特に大幅な落ち込みとなった。

使用済み自動車触媒からのスクラップ供給量も2016年に前年比で5%増加し、前年の減少分を半分取り戻して32.4トンとなった。原動力となったのは、欧州と新興市場でのリサイクル量の増加で、欧州では廃車のリサイクル価額の回復が追い風となった。

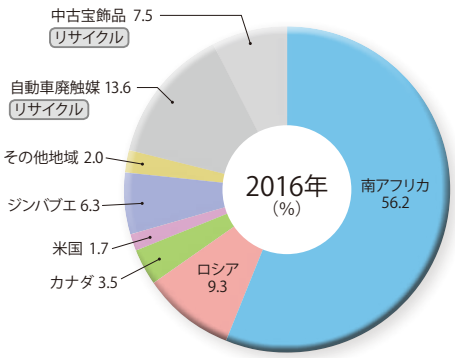
需要については、自動車触媒用プラチナ消費量が2%増の102.2トンとなったが、増加率はパラジウム需要の半分に満たなかった。牽引役は欧州

◆プラチナの供給（鉱山生産量とリサイクル）

単位：トン

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
鉱山生産	199.2	180.3	187.0	151.0	191.5	188.0
南アフリカ	147.4	130.1	135.9	100.2	140.7	133.9
ロシア	25.4	25.0	23.0	21.4	22.4	22.1
カナダ	8.4	6.9	6.8	8.7	7.5	8.3
米国	3.7	3.7	3.7	3.7	3.8	4.0
ジンバブエ	10.6	10.4	12.7	12.4	12.4	15.0
その他地域	3.6	4.3	4.9	4.8	4.7	4.7
リサイクル	49.8	44.8	47.9	50.0	47.8	50.2
自動車廃触媒	31.0	28.8	32.7	34.0	30.9	32.4
中古宝飾品	18.8	15.9	15.3	16.1	17.0	17.9
合　計	**249.0**	**225.0**	**234.9**	**201.1**	**239.4**	**238.3**

出所：GFMS、Thomson Reuters



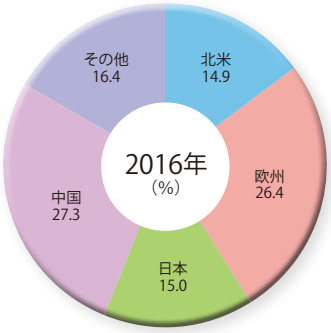
プラチナの供給
（鉱山生産量とリサイクル）

◆プラチナの地域別需要

単位：トン

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
北米	33.9	35.8	35.2	36.9	36.4	36.4
欧州	62.3	56.4	54.4	58.5	62.4	64.5
日本	34.3	33.7	23.2	23.2	38.6	36.6
中国	62.8	70.2	73.0	68.6	66.7	66.7
その他	41.8	39.0	36.2	40.2	40.3	39.9
合　計	**234.6**	**234.6**	**221.7**	**227.6**	**244.0**	**244.3**

出所：GFMS、Thomson Reuters



プラチナの地域別需要

※各項目を四捨五入しているため、合計と一致しない場合があります。
（コメントは、GFMS PLATINUM GROUP METALS SURVEY 2017日本語ダイジェスト版より抜粋）

と新興市場の需要増加で、北米と日本の需要減少が足かせとなった。2016年はフォルクスワーゲンの排ガス不正問題の影響が通年で反映される最初の年であり、加えてディーゼル車の市場シェアも縮小していることから、欧州の需要増加は意外に見えるかもしれない。しかし、昨年は、自動車販売台数全体が大幅に増加し、ディーゼル車の生産台数も増加。また、9月からすべての自動車に適用されるようになった排ガス規制 Euro 6b に対応するためにプラチナ充填量も増加した。

プラチナの宝飾品需要は 2016 年に 12％減少して 67.7 トンまで落ち込んだ。この需要減少の大半を占めたのは中国で、景気の減速と 18 金宝飾品の市場シェア拡大が逆風となった。それ以外の地域では、北米の宝飾加工需要も減少した。背景には、販促活動が不十分だったことや、プラチナ価格が金価格を大幅に下回っていた時期にプラチナ宝飾品が割高であったことがあった。日本の需要は小幅な減少にとどまって持ちこたえたが、欧州の需要も販促活動不足により打撃を受けた。

産業需要については、大半のセクターで需要が増加し、全体では前年比 17％増となった。最も際立ったのはガラスセクターと石油セクターの需要回復で、それぞれ 59％増と 22％増となった。ガラスセクターでは、中国における生産施設の新設が追い風となった。さらに、化学セクターとその他の産業セクターでも需要が大幅に増加。化学セクターでは、パラキシレン生産設備の拡充の動きが戻ったことが追い風となった。唯一の例外が電子材セクターの需要で、パソコン需要の世界的な落ち込みにより、プラチナ需要も 2％減少した。

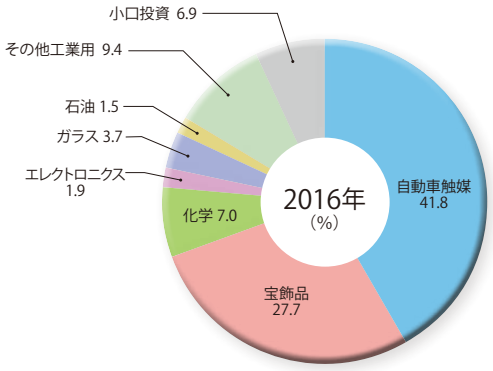
昨年はプラチナ価格が下落し、相場の回復観測も乏しかったことから、小口投資需要は打撃を受け、2015 年の記録的な水準から 7％減少して、推定 16.8 トンにとどまった。歴史的に見れば、高水準であることに変わりはなく、減少の大半は日本の大幅な需要減少が占めた。それ以外では、オーストリアがプラチナコインを発売したため、欧州の需要が増加し、北米の需要も増加して 4 年ぶりの高水準に達した。

◆プラチナの用途別需要

単位：トン

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
自動車触媒	96.1	92.5	92.0	96.8	99.9	102.2
宝飾品	74.3	80.4	82.6	79.6	76.7	67.7
化学	15.1	12.4	13.4	18.5	14.8	17.2
エレクトロニクス	7.0	6.1	5.3	5.1	4.7	4.6
ガラス	10.5	11.2	0.7	-2.3	5.7	9.0
石油	4.5	3.9	3.3	3.8	3.0	3.65
その他工業用	17.4	19.3	20.2	21.8	21.2	23.1
小口投資	9.7	8.8	4.2	4.4	18.1	16.8
合計	**234.6**	**234.6**	**221.7**	**227.6**	**244.0**	**244.3**

出所：GFMS、Thomson Reuters



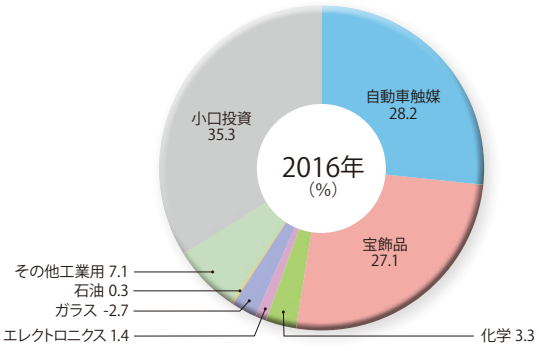
プラチナの用途別需要

◆日本の用途別プラチナ需要

単位：トン

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2015年
自動車触媒	11.4	12.1	11.3	10.6	10.6	10.3
宝飾品	8.8	10.0	10.2	9.9	10.1	9.9
化学	1.0	0.7	0.8	1.4	1.1	1.2
エレクトロニクス	0.8	0.7	0.5	0.5	0.5	0.5
ガラス	3.4	3.1	-2.9	-3.6	-1.2	-1.0
石油	0.3	0.3	-0.4	0.2	-0.6	0.1
その他工業用	2.2	2.3	2.5	2.4	2.6	2.6
小口投資	6.4	4.6	1.2	1.7	15.5	12.9
合計	**34.3**	**33.8**	**23.2**	**23.1**	**38.6**	**36.5**

出所：GFMS、Thomson Reuters



日本の用途別プラチナ需要

一般社団法人

日本金地金流通協会・沿革と活動

協会の設立と目的ならびに会員構成

昭和 54 年 12 月、金地金の健全な取引と正しい知識の普及をはかるために発足した当協会は、皆様のご支援のもとに、36 年を経過しようとしています。この間、広報、調査、教育等の活動を中心に、所期の目的を果たすべく努力を傾注し、これにより世界の金・プラチナ地金流通機構の一環として社会の信頼と世界的な相互関係を確保することが達成し得たと申せましょう。

当協会は、現在（平成 29 年 9 月）下記の構成で結束を固め、日本の金・プラチナ市場のいっそうの発展に寄与していく所存です。

正会員	24 社	
特別会員	2 社	
登録店	158 社	
賛助会員	26 社	合計 210 社

協会の沿革と日本の金市場

現在の「一般社団法人　日本金地金流通協会」の沿革は、昭和 22 年 4 月に結成され、昭和 28 年 7 月に発展的に解散された「貴金属協議会」に端を発しております。

昭和 28 年 8 月に政府の金政策の転換により金管理法の一部が改正され、国内新産金の一部（後に全部）の民間放出が認められることになり、前述の貴金属協議会は発展的に解散となり、貴金属地金商 14 社、1 協同組合が新たに「貴金属地金協会」を結成しました。

昭和 48 年 4 月、金の輸入自由化とともにデパート等で金の販売がスタート。昭和 53年、輸出の自由化も実施され、わが国では金の取引が完全に自由化されました。年々急増するわが国の金需要に関連して、金地金に関する知識や取引形態についての理解の不足などから、無秩序に出現した私設の金市場による一般消費者の被害も多発し、社会的な問題となってきました。

このような背景の中で、金地金の健全な流通機構の整備と正しい知識の普及を目的として、貴金属地金協会会員が中心となり、昭和 54 年 12 月 28 日、通商産業省（現・経済産業省）から社団法人 日本金地金流通協会の設立が許可され、昭和 55 年 1 月より活動を開始しました。その後、平成 25 年 4 月 1 日付けで一般社団法人へ移行し現在に至っております。

以降、金やプラチナの正しい取引についての啓蒙活動を積極的に展開する一方、講演会の開催、会員のための研修会開催、悪質な取引に関する注意喚起など、幅広く活動を行っております。また、平成 12 年 4 月からインターネット上にホームページを開設し、会員会社の紹介を行うとともに、一般消費者に対して金地金等の貴金属に関する各種の情報提供を行っております。

協会役員の紹介

会長	古宮　誠一	石福金属興業株式会社	代表取締役会長
副会長	山口　純	株式会社 徳力本店	代表取締役社長
副会長	大浦　良幸	大浦貴金属工業株式会社	代表取締役社長
専務理事	須江　米夫	一般社団法人 日本金地金流通協会	
理事	田苗　明	田中貴金属工業株式会社	代表取締役社長
理事	五木田　春夫	小島化学薬品株式会社	代表取締役社長
理事	井嶋　隆之	井嶋金銀工業株式会社	代表取締役社長
理事	相田　英則	相田化学工業株式会社	代表取締役社長
理事	堤田　龍治	堤田貴金属工業株式会社	代表取締役専務
理事	山本　樹育	YAMAKIN株式会社	代表取締役社長
監事	乾　保太郎	乾庄貴金属化工株式会社	代表取締役社長
監事	片桐　俊一	片桐貴金属工業株式会社	代表取締役社長

正会員

当協会正会員24社が販売する金地金には、それぞれの《刻印》が押されており、
信頼のシンボルになっています。

株式会社 アサカ理研
〒963-0725 福島県郡山市田村町金屋字マセロ47
TEL.024-944-4744　FAX.024-944-4766
www.asaka.co.jp

田中貴金属工業株式会社
〒100-6422 東京都千代田区丸の内2-7-3
東京ビルディング22F
TEL.03-6311-5511　FAX.03-6311-5571
gold.tanaka.co.jp

相田化学工業株式会社
〒183-0026 東京都府中市南町6-15-13
TEL.042-368-6311　FAX.042-368-6316
www.aida-j.jp

株式会社 徳力本店
〒101-8548 東京都千代田区鍛冶町2-9-12
TEL.03-3252-0171　FAX.03-3258-1234
www.tokuriki-kanda.co.jp

アサヒプリテック株式会社
〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12
サピアタワー11F
TEL.03-6270-1826　FAX.03-6270-1825
www.asahipretec.com

中溝貴金属工業株式会社
〒141-0031東京都品川区西五反田3-16-7
TEL.03-3491-4141　FAX.03-3490-4550

石福金属興業株式会社
〒101-8654 東京都千代田区内神田3-20-7
TEL.03-3252-3131　FAX.03-3254-6285
www.ishifuku.co.jp

松田産業株式会社
〒163-0558 東京都新宿区西新宿1-26-2
新宿野村ビル6F
TEL.03-3345-0811　FAX.03-3345-8605
www.matsuda-sangyo.co.jp

井島貴金属精錬株式会社
〒116-0013 東京都荒川区西日暮里2-50-10
TEL.03-3803-1705　FAX.03-3803-2492
www.ijimakk.com

株式会社 松村金銀店
〒124-0013 東京都葛飾区東立石3-11-7
TEL.03-3694-0173　FAX.03-3691-4601
www.kingin.co.jp

井嶋金銀工業株式会社
〒116-8543 東京都荒川区東日暮里5-47-10
TEL.03-3803-4341　FAX.03-3802-4775
www.ijimakk.co.jp

水野ハンディー・ハーマン株式会社
〒110-0014 東京都台東区北上野2-11-12
TEL.03-3844-6161　FAX.03-3844-6150
www.mhh.co.jp

片桐貴金属工業株式会社
〒114-0012 東京都北区田端新町3-11-2
TEL.03-3894-4111　FAX.03-3894-4178
www.katagiri-k-k.co.jp

横浜金属株式会社
〒252-0132 相模原市緑区橋本台3-5-2
TEL.042-773-4411　FAX.042-773-4775
www.yk-metal.com

小島化学薬品株式会社
〒350-1335 埼玉県狭山市柏原337-26
TEL.04-2953-9231　FAX.04-2953-9237
www.kojima-c.co.jp

株式会社 森銀
〒400-0834 山梨県甲府市落合町817
TEL.055-241-6611　FAX.055-241-7988
www.morigin.co.jp

竹内貴金属工業株式会社
〒108-0071 東京都港区白金台1-2-10
藤和白金台コープB101
TEL.03-3447-0321　FAX.03-3447-0340
www.takeuchi-kk.com

安藤貴金属精錬株式会社
〒453-0014 名古屋市中村区則武1-1-24
TEL.052-452-1678　FAX.052-451-1122
www.ando-precious.com

正会員

株式会社 坂金銀店
〒451-0044 名古屋市西区菊井1-24-18
TEL.052-571-3555　FAX.052-571-3557

YAMAKIN株式会社
〒543-0015 大阪市天王寺区真田山町3-7
TEL.06-6761-4739　FAX.06-6761-4743
www.yamakin-gold.co.jp

大浦貴金属工業株式会社
〒630-8042 奈良県奈良市西ノ京町284
TEL.0742-33-8545　FAX.0742-34-7884
www.ohura.co.jp

堤田貴金属工業株式会社
〒733-0012 広島市西区中広町2-14-23
TEL.082-293-2233　FAX.082-295-0643
www.gold-tsutsumida.co.jp

乾庄貴金属化工株式会社
〒556-0005 大阪市浪速区日本橋4-10-8
TEL.06-6643-1234　FAX.06-6643-4598
www.prcimtl.co.jp

株式会社 松井商会
〒874-0942 大分県別府市千代町4-2
TEL.0977-22-4045　FAX.0977-23-3226
matsuishokai.net

特別会員

ワールドゴールドカウンシル
〒107-0051 東京都港区元赤坂1-5-20-709

プラチナ・ギルド・インターナショナル株式会社
〒100-8575 東京都千代田区内幸町1-1-1
帝国ホテル本館5F-506

※ホームページURL冒頭の「http://」は省略しております。

貴金属の需給リポート
『GFMS GOLD SURVEY 2017』日本語版……gold.tanaka.co.jp/statistics/index.html
『GFMS PLATINUM & PALLADIUM SURVEY 2017』日本語版……gold.tanaka.co.jp/statistics/index.html

貴金属情報
ワールド ゴールド カウンシル（英文）……www.gold.org
プラチナ・ギルド・インターナショナル 株式会社……www.preciousplatinum.jp
THOMSON REUTERS（英文）……thomsonreuters.com
KITCO（英文：価格情報をリアルタイムでチャート表示）……www.kitco.com
The Bullion Desk（英文：英語圏のニュース、リポート）……www.bulliondesk.com

登録店

■北海道

風早金銀店
〒060-0062 札幌市中央区南2条西7丁目
TEL.011-231-2213 FAX.011-231-7457

(株)宝石の玉屋
〒060-0002 札幌市中央区北2条西3丁目-1
敷島ビル1F
TEL.011-231-4517 FAX.011-222-1892

時計・宝石いしおか
〒080-0012 帯広市西2条南8丁目
藤丸デパート6F
TEL.0155-24-0936 FAX.0155-23-3193

ヘリテージ・キムラ
〒053-0022 苫小牧市表町3-2-11
TEL.0144-34-6511 FAX.0144-36-4877

(株)ワ渡辺時計店
〒040-0063 函館市若松町17-9
TEL.0138-23-4111 FAX.0138-26-2818

(株)日昇堂
〒050-0074 室蘭市中島町1-18-4
TEL.0143-44-4476 FAX.0143-44-6321

(株)藤屋時計店
〒050-0085 室蘭市輪西町1-19-5
TEL.0143-44-5551 FAX.0143-43-8035

■青森県

(株)丸啓
〒030-0801 青森市新町2-5-6
TEL.0177-23-2611 FAX.0177-23-2622

(株)マエバラ
〒031-0031 八戸市番町30
TEL.0178-45-6677 FAX.0178-45-6728

(株)高橋時計店
〒035-0035 むつ市本町3-9
TEL.0175-22-3010 FAX.0175-22-3979

■秋田県

(株)竹谷本店
〒010-0001 秋田市中通2-4-3
TEL.018-835-1331 FAX.018-832-1906

■宮城県

GINZA TANAKA 仙台店
〒980-0811 仙台市青葉区一番町3-5-7
TEL.022-265-4130 FAX.022-265-4131

(株)三原本店
〒980-0811 仙台市青葉区一番町3-2-23
TEL.022-224-0010 FAX.022-224-0536

(株)ナガハシ
〒989-0275 白石市字本町105
TEL.0224-25-1188 FAX.0224-25-1189

(株)天賞堂
〒989-6163 大崎市古川台町1-7
TEL.0229-23-5151 FAX.0229-23-7842

■福島県

(株)三瓶貴金属店
〒960-8036 福島市新町2-30
TEL.024-522-8451 FAX.024-522-5538

(株)ネモト
〒970-8026 いわき市平3-24
TEL.0246-25-5566 FAX.0246-23-8089

ワタナベ
〒970-8026 いわき市平2-33-1
TEL.0246-22-2131 FAX.0246-22-2132

(株)増子時計店
〒963-8002 郡山市駅前2-6-19
TEL.024-922-3456 FAX.024-932-2566

(有)サトウ時計店
〒965-0878 会津若松市中町1-1
TEL.0242-27-1290 FAX.0242-27-4120

(株)石沢
〒964-0906 二本松市若宮2-154-15
TEL.0243-23-0431 FAX.0243-23-0453

■岩手県

(株)道又時計店
〒020-0022 盛岡市大通り3-1-18
TEL.019-651-1234 FAX.019-651-1238

(有)松村時計店
〒024-0094 北上市本通り2-3-43
TEL.0197-65-3201 FAX.0197-65-2085

(株)おくやま
〒025-0078 花巻市吹張町12-11
TEL.0198-22-3333 FAX.0198-22-6770

■山形県

(株)平田金銀店
〒990-0039 山形市香澄町3-1-1
TEL.023-622-5540 FAX.023-641-3214

(株)宝石の柿崎
〒996-0023 新庄市沖の町5-13
TEL.0233-22-3115 FAX.0233-22-2542

(有)佐藤正栄堂
〒997-0034 鶴岡市本町2-2-10
TEL.0235-22-0554 FAX.0235-24-9350

(株)新光堂本店
〒994-0049 天童市南町1-1-15
TEL.023-654-5626 FAX.023-654-5621

■茨城県

(株)ジュエリーネモト
〒310-0852 水戸市笠原町300-1
TEL.029-305-1811 FAX.029-305-1671

(株)イシカワ
〒310-0021 水戸市南町3-4-8
TEL.029-225-3939 FAX.029-225-3936

(有)中村時計店
〒306-0033 古河市中央町1-10-43
TEL.0280-22-0654 FAX.0280-22-0656

■栃木県

(有)今泉貴金属
〒320-0023 宇都宮市仲町1-13
TEL.028-622-3573 FAX.028-624-5010

(有)トコヨ時計店
〒320-0802 宇都宮市江野町5-10
TEL.028-634-9057 FAX.028-634-9057

(株)博泉堂
〒320-0026 宇都宮市馬場通り2-3-8
TEL.028-635-1811 FAX.028-633-3366

(株)フタバ堂
〒326-0814 足利市通2-2618
TEL.0284-22-0234 FAX.0284-20-1025

(株)ジュエルエレガンス
〒323-0829 小山市東城南1-31-7
TEL.0285-31-4866 FAX.0285-31-4867

■群馬県

ラフィーネ平田
〒371-0831 前橋市小相木町545-1
TEL.027-252-8828 FAX.027-251-0862

パルク岡村
〒372-0047 伊勢崎市本町3-23
TEL.0270-25-0131 FAX.0270-25-3211

イトイ本店
〒373-0817 太田市飯塚町1434-1
TEL.0276-45-1477 FAX.0276-49-3181

■埼玉県

(株)ツツミ
〒335-0004 蕨市中央4-24-26
TEL.048-431-5111 FAX.048-444-2900

登録店

■千葉県

(株)勉強堂本店
〒260-0013 千葉市中央区中央3-15-9
TEL.043-225-1131 FAX.043-225-8292

実香宝石店
〒294-0047 館山市八幡530-1
TEL.0470-22-0665 FAX.0470-24-1508

■東京都

中真堂(株)
〒133-0056 江戸川区南小岩7-24-15
小岩ステーションセンター内
TEL.03-3672-0424 FAX.03-3672-0560

(株)フジタ
〒144-0052 大田区蒲田5-8-8
TEL.03-3731-2980 FAX.03-3736-0821

(株)山口商店
〒115-0055 北区赤羽西4-1-17
TEL.03-3900-3655 FAX.03-3906-4389

(株)明光堂
〒135-0047 江東区富岡1-9-9
TEL.03-3641-1865 FAX.03-3641-2006

GINZA TANAKA 新宿店
〒160-0022 新宿区新宿3-33-10
TEL.03-3355-4143 FAX.03-3355-5321

石福ジュエリーパーツ(株)
〒110-0005 台東区上野5-22-6
御徒町みきビル
TEL.03-3832-5241 FAX.03-3836-2063

(株)大淵銀器
〒110-0015 台東区東上野3-1-13
TEL.03-3847-7711 FAX.03-3843-1360

(株)コモキン 本店
〒110-0005 台東区上野1-10-10
うさぎやビル3F
TEL.03-3836-0471 FAX.03-3836-1790

松本徽章工業(株)
〒111-0041 台東区元浅草1-12-2
TEL.03-3842-6161 FAX.03-3845-6267

(株)森銀器製作所
〒110-0015 台東区東上野2-5-12
TEL.03-3833-8821 FAX.03-3832-3762

(株)浅野商店
〒104-0061 中央区銀座8-8-5 太陽ビル10F
TEL.03-3573-1003 FAX.03-3573-2002

GINZA TANAKA 銀座本店
〒104-0061 中央区銀座1-7-7
TEL.0120-76-4143 FAX.03-3564-2658

オリエンタルダイヤモンド 丸の内店
〒100-0006 千代田区有楽町1-12-1
新有楽町ビル1F
TEL.03-3287-2801 FAX.03-3287-2802

(株)一誠堂
〒152-0035 目黒区自由が丘1-29-7
TEL.03-3717-6660 FAX.03-3718-8765

■神奈川県

(株)アート宝飾
〒231-0014 横浜市中区常盤町4-45
TEL.045-662-3111 FAX.045-681-6363

GINZA TANAKA 横浜元町店
〒231-0861 横浜市中区元町1-29-3
TEL.045-663-3151 FAX.045-663-3157

佐野商事(株)
〒257-0031 秦野市曽屋1175
TEL.0463-82-3500 FAX.0463-82-3501

(株)銀美堂
〒251-0047 藤沢市辻堂1-3-2
TEL.0466-36-5131 FAX.0466-36-5557

(株)和田屋
〒251-0052 藤沢市藤沢969-1-101
TEL.0466-26-2306 FAX.0466-26-2307

■山梨県

井島貴金属精錬(株)甲府営業所
〒400-0861 甲府市城東1-8-11
ルミエール愛宕山1F
TEL.0552-35-6963 FAX.0552-32-8527

(株)オプト ナカムラ
〒401-0301 南都留郡富士河口湖町船津2448
TEL.0555-72-1408 FAX.0555-73-3666

■長野県

ジュエリー東京 長野店
〒380-0826 長野市北石堂町1381
TEL.026-226-5556 FAX.026-226-7770

(有)ツノダ
〒395-0031 飯田市銀座4-1
TEL.0265-23-1321 FAX.0265-23-1322

(株)マルトキ
〒396-0025 伊那市荒井22
TEL.0265-78-2266 FAX.0265-73-6977

(株)三村貴金属店
〒392-0004 諏訪市諏訪1-5-20
TEL.0266-52-0625 FAX.0266-52-0630

(株)ヤマザキ
〒392-0004 諏訪市諏訪1-3-11
TEL.0266-52-5200 FAX.0266-58-5814

■新潟県

(株)宝石のダイヤ
〒951-8063 新潟市古町通八番町1508
TEL.025-228-5833 FAX.025-225-4171

(株)早津
〒943-0832 上越市本町4-1-8
TEL.025-523-2203 FAX.025-524-0366

(株)ミヤコヤ
〒940-0062 長岡市大手通1丁目3-3
TEL.0258-36-2020 FAX.0258-32-1616

■静岡県

(株)安心堂
〒420-0031 静岡市葵区呉服町2-1-9
TEL.054-254-0111 FAX.054-247-6651

(株)タカラ堂
〒420-0031 静岡市葵区呉服町2-4-4
TEL.054-254-0141 FAX.054-251-2660

オザワ宝石(株)
〒422-8042 静岡市駿河区石田3-6-13
TEL.054-283-2105 FAX.054-285-9275

(株)三青貴宝
〒410-0037 沼津市三枚橋町5-21 三青ビル
TEL.055-963-2779 FAX.055-951-0263

河合宝石店
〒430-0928 浜松市板屋町102-14
TEL.053-453-9177 FAX.053-454-1251

(株)いとう時計店
〒421-0523 牧之原市相良町波津709
TEL.0548-52-1191 FAX.0548-52-2688

■愛知県

(株)池田商店
〒460-0008 名古屋市中区栄2-5-13
TEL.052-221-7411 FAX.052-201-6900

石福金属興業(株)名古屋営業所
〒450-0002 名古屋市中村区名駅5-22-10
TEL.052-563-1201 FAX.052-563-1219

(株)サンメナード
〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-5-24
ノノガワビル2F
TEL.052-962-4755 FAX.052-951-4705

(株)水渓
〒460-0008 名古屋市中区栄3-27-25
TEL.052-261-2641 FAX.052-261-7093

GINZA TANAKA 名古屋店
〒460-0011 名古屋市中区大須4-1-70
TEL.052-262-0277 FAX.052-263-1580

(株)柏圭
〒460-0008 名古屋市中区栄2-1-1
日土地名古屋ビル14F
TEL.052-204-1180 FAX.052-204-0660

(株)エンジェリーいのこ
〒491-0851 一宮市大江3-1-21
TEL.0586-71-7474 FAX.0586-71-7477

(株)伊藤宝石店
〒448-0844 刈谷市広小路4-209
TEL.0566-21-3124 FAX.0566-21-8205

(株)ニイミ時計店
〒475-0853 半田市南末広町120-1
TEL.0569-22-4771 FAX.0569-22-4772

ジュエリーサトウ
〒496-0071 津島市新開町1-6 ヨシヅヤSC内1F
TEL.0567-23-2233 FAX.0567-23-7351

■岐阜県

(株)岩田時計舗
〒500-8876 岐阜市日ノ出町1-16
TEL.058-265-7717 FAX.058-266-0160

(株)千賀
〒500-8833 岐阜市神田町8-15
TEL.058-265-5566 FAX.058-263-5468

■三重県

(株)キタオカ
〒510-0086 四日市市諏訪栄町14-8
TEL.059-351-2552 FAX.059-354-1954

(有)日宝堂
〒516-0026 伊勢市宇治浦田3-3-33
TEL.0596-24-2180 FAX.0596-28-8100

■富山県

(株)ソシエハシヅメ
〒930-0083 富山市総曲輪3-5-10
TEL.076-425-3838 FAX.076-422-3033

エルサカエ富山総本店
〒930-0818 富山市奥田町3-14
TEL.076-431-3200 FAX.076-442-1177

(株)大坪
〒933-0026 高岡市片原町155
TEL.0766-25-4255 FAX.0766-26-6165

■石川県

作田金銀製箔(株)
〒920-0831 金沢市東山1-3-27
TEL.076-251-6777 FAX.076-251-6677

(株)アルテシマダ
〒920-0854 金沢市安江町11-40
TEL.076-260-0050 FAX.076-223-0771

高岡製箔(株)
〒920-0843 金沢市森山1-30-4
TEL.076-252-3601 FAX.076-252-7765

(株)今井金箔
〒920-0968 金沢市幸町7-3
TEL.076-221-1990 FAX.076-223-1659

(株)森立志堂
〒923-0921 小松市土居原町189-2
TEL.0761-24-1388 FAX.0761-24-1384

■福井県

(株)福井ゴールドセンター奥田
〒910-0004 福井市宝永4-19-3
TEL.0776-22-3506 FAX.0776-22-3546

(株)藤井時計店
〒910-0006 福井市中央1-5-1
TEL.0776-22-3375 FAX.0776-22-3349

(株)宝石時計の武内
〒910-0006 福井市中央1-9-28
TEL.0776-30-7711 FAX.0776-30-7710

(株)川上
〒914-0054 敦賀市白銀町5-27
TEL.0770-22-0665 FAX.0770-22-6060

■京都府

(株)ゴールドスリー サイトウ
〒604-8081京都市中京区寺町通三条上ル
天性寺前町532 北原ビルB1
TEL.075-241-2468 FAX.075-254-7117

星辰屋
〒623-0021 綾部市本町2-2
TEL.0773-42-2154 FAX.0773-42-2154

(有)カワモト
〒621-0818 亀岡市京町28-1
TEL.077-122-1682 FAX.077-122-2788

(株)シオミ
〒625-0036 舞鶴市字浜266
TEL.0773-62-0370 FAX.0773-64-3806

■奈良県

(株)エレガンスヨシダ
〒636-0003 北葛城郡王寺町久度2-13-5
TEL.0745-32-1151 FAX.0745-72-1770

■大阪府

石福金属興業(株)大阪営業所
〒550-0005 大阪市西区西本町1-13-36
TEL.06-6532-1351 FAX.06-6533-6064

オリエンタルダイヤモンド梅田店
〒530-0001 大阪市北区梅田1-11-4-100
大阪駅前第4ビル1F
TEL.06-6344-1821 FAX.06-6341-5708

GINZA TANAKA 心斎橋店
〒520-0085 大阪市中央区心斎橋筋1-4-21
TEL.06-6244-4143 FAX.06-6253-4110

(株)徳力本店 大阪営業所
〒542-0081大阪市中央区南船場2-11-20
GATO三休橋ビル1F
TEL.06-6252-7811 FAX.06-6252-7815

(株)新光貴
〒542-0081 大阪市中央区南船場2-7-21
TEL.06-6261-0210 FAX.06-6261-0220

■兵庫県

(株)タナカ
〒670-0922 姫路市二階町51
TEL.079-225-1212 FAX.079-225-1215

木谷貴金属(株)
〒650-0022 神戸市中央区元町通1-5-10
TEL.078-332-5757 FAX.078-391-3664

(株)元町時計店
〒650-0022 神戸市中央区元町通1-8-5
TEL.078-331-1712 FAX.078-331-1860

K.G.B.神戸ゴールドバンク
〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中6-9 1R-07
神戸ファッションマート1F
TEL.078-891-8711 FAX.078-891-8733

(株)ミヤコ
〒675-0065 加古川市加古川町篠原町13-4
TEL.079-422-2232 FAX.079-425-2243

■和歌山県

(株)セキネ 本店
〒643-0025 有田郡有田川町土生44-1
TEL.0737-23-7363 FAX.0737-23-7361

■岡山県

(株)田中時計店
〒700-0822 岡山市北区表町2-2-81
TEL.086-225-2361 FAX.086-232-4448

(株)トミヤコーポレーション
〒700-0822 岡山市北区表町2-2-83
TEL.086-212-1038 FAX.086-235-6565

菅田(株)
〒708-0841 津山市川崎1902-3
TEL.0868-25-1231 FAX.0868-23-1232

(株)不二屋宝飾店
〒708-8520 津山市新魚町17 アルネ津山1F
TEL.0868-22-3914 FAX.0868-22-3918

登録店

■鳥取県

(株)中井脩
〒680-0831 鳥取市栄町623
TEL.0857-23-5221 FAX.0857-22-8338

(株)米子中井脩
〒683-0804 米子市米原7-1-14
TEL.0859-33-5566 FAX.0859-22-2219

■島根県

(有)創美堂
〒690-0843 松江市末次本町29
TEL.0852-21-4100 FAX.0852-27-4100

(株)アツタ
〒693-0004 出雲市渡橋町1210
TEL.0853-22-5530 FAX.0853-22-5531

(株)ニッタ
〒697-0037 浜田市新町11-3
TEL.0855-23-1141 FAX.0855-23-1145

■広島県

(株)ナカオカ
〒730-0033 広島市中区堀川町5-10
TEL.082-246-7788 FAX.082-246-4300

(株)麻生
〒720-0043 福山市船町1-1
TEL.084-926-2538 FAX.084-931-2911

■山口県

(株)山本時計店
〒753-0043 山口市宮島町8-4
TEL.083-924-3210 FAX.083-924-3218

(株)ジュエルセブン
〒750-0025 下関市竹崎町4-4-8
TEL.083-235-0123 FAX.083-261-1377

■徳島県

(株)池田時計店
〒770-0904 徳島市新町橋1-11
TEL.088-622-2770 FAX.088-623-4194

(株)ハラダ
〒770-0912 徳島市東新町1-21
TEL.088-622-6872 FAX.088-655-1236

(株)ヨシイ時計店
〒772-0003 鳴門市撫養町小桑島字前浜23-9
TEL.088-685-3589 FAX.088-685-8866

(株)ジュエリー ピコ
〒771-0212 板野郡松茂町中喜来字前原東5-9-2
TEL.088-699-3339 FAX.088-699-6669

■香川県

(株)柿屋
〒760-0040 高松市片原町9-7
TEL.087-821-5440 FAX.087-821-5447

(有)はなや
〒760-0029 高松市丸亀町6-6
TEL.087-822-0777 FAX.087-822-0778

■高知県

(株)大西時計店
〒780-0841 高知市帯屋町1-13-20
TEL.088-823-0024 FAX.088-823-0025

■愛媛県

桜産業(株)
〒790-0012 松山市湊町3-8-5
TEL.089-941-7111 FAX.089-941-7115

(有)ササキ時計店
〒794-0015 今治市常盤町2-6-1
TEL.0898-32-2126 FAX.0898-32-2124

(株)木藤時計店
〒798-0040 宇和島市中央町1-5-7
TEL.0895-25-2255 FAX.0895-24-5109

■福岡県

(株)ジャパンゴールド
〒810-0041 福岡市中央区大名1-14-45
Qiz TENJINビル3F
TEL.092-771-8200 FAX.092-761-8361

GINZA TANAKA 福岡 西鉄グランドホテル店
〒814-0041 福岡市中央区大名2-6-60
西鉄グランドホテル1F
TEL.092-712-4143 FAX.092-712-4166

石福金属興業(株)九州営業所
〒802-0002 北九州市小倉北区京町3-13-13
TEL.093-531-9331 FAX.093-551-7548

(株)小林時計店
〒802-0006 北九州市小倉北区魚町1-3-6
TEL.093-521-0013 FAX.093-522-7735

(株)ナカノ
〒802-0006 北九州市小倉北区魚町2-3-22
TEL.093-521-0453 FAX.093-521-9575

ゴールド アンド アサヒ
〒830-0032 久留米市東町34-67
TEL.0942-37-3802 FAX.0942-37-3803

■長崎県

(有)和光
〒850-0901 長崎市本石灰町1-7
TEL.095-821-6363 FAX.095-827-7431

(資)山之内時計眼鏡店
〒855-0804 島原市万町500
TEL.0957-62-3003 FAX.0957-64-3003

ゴールドジュエリー タナカ
〒857-0875 佐世保市下京町4-21
TEL.0956-23-8084 FAX.0956-23-8087

■佐賀県

(株)ニシムラ
〒840-0824 佐賀市呉服元町2-20
TEL.0952-22-6781 FAX.0952-24-5773

■熊本県

ジュエラーキヨタ本店
〒860-0845 熊本市中央区上通町7-3
TEL.096-324-1010 FAX.096-324-6501

(有)恒松時計店
〒868-0501 球磨郡多良木町大字多良木555-2
TEL.0966-42-2382 FAX.0966-42-6567

■宮崎県

日髙本店
〒880-0001 宮崎市橘通西3-10-24
TEL.0985-26-1101 FAX.0985-26-1024

■鹿児島県

(有)共立時計店
〒891-0141 鹿児島市谷山中央2-4185
TEL.099-268-3061 FAX.099-260-1444

■沖縄県

(株)鉢嶺本店
〒900-0006 那覇市おもろまち4-3-8
TEL.098-860-6777 FAX.098-860-3775

(株)山城時計店
〒900-0015 那覇市久茂地3-3-2
TEL.098-867-3093 FAX.098-861-7074

賛助会員

■鉱山

住友金属鉱山（株）
〒105-8716 東京都港区新橋5-11-3
新橋住友ビル3F
TEL.03-3436-7841

中外鉱業（株）
〒100-6312 東京都千代田区丸の内2-4-1
丸の内ビルヂング 12F
TEL.03-3201-1542

東邦亜鉛（株）
〒100-8207 東京都千代田区丸の内1-8-2
鉄鋼ビルディング6F
TEL.03-6212-1711

DOWA メタルマイン（株）
〒101-0021 東京都千代田区外神田4-14-1
秋葉原UDXビル22F
TEL.03-6847-1204

日鉄鉱業（株）
〒100-8377 東京都千代田区丸の内2-3-2
郵船ビル6Ｆ
TEL.03-3216-5265

日本鉱業協会
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町
3-17-11 榮葉ビル8F
TEL.03-5280-2321

古河メタルリソース（株）
〒100-8370 東京都千代田区丸の内2-2-3
丸の内仲通りビル3F
TEL.03-3212-6840

三菱マテリアル（株）
〒101-8338 東京都千代田区内神田2-16-11
内神田渋谷ビル9F
TEL.03-5298-3851

パンパシフィック・カッパー（株）
〒100-8147 東京都千代田区大手町1-1-2
JXビル18F
TEL.03-6257-7584

■商社

住商マテリアル（株）
〒104-0053 東京都中央区晴海1-8-8
晴海トリトンスクエアオフィスタワーW5F
TEL.03-5144-0506

三井物産（株）
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-2-1
TEL.03-3285-1111

三菱商事RtMジャパン(株)
〒100-7027 東京都千代田区丸の内2-7-2
JPタワー27F
TEL.03-5221-1770

双日（株）
〒100-8691 東京都千代田区内幸町2-1-1
飯野ビル24F
TEL.03-6871-2327

■装身具

日本貴金属製鎖工業組合
〒110-0015 東京都台東区東上野1-26-2
オーラム505号室
TEL.03-3836-1704

（一般社）日本ジュエリー協会
〒110-8626 東京都台東区東上野2-23-25
TEL.03-3835-8567

日本貴金属協同組合
〒116-0013 東京都荒川区西日暮里2-29-6
TEL.03-3803-5535

中川装身具工業（株）
〒111-0052 東京都台東区柳橋1-29-7
TEL.03-3861-2111

■その他

（株）ADI.G
〒920-0841 石川県金沢市浅野本町1-10-10
TEL.076-251-0115

（株）シラネ
〒460-0012 名古屋市中区千代田2-4-8
TEL.052-261-4636

鈴木貴金属化工（株）
〒332-0001 埼玉県川口市朝日4-21-52
TEL.048-222-3450

ユミコアジャパン（株）
〒107-6026 東京都港区赤坂1-12-32
アーク森ビル26F
TEL.03-6685-2611

（株）東京貴金属地金店
〒110-0005 東京都台東区上野5-21-7
TEL.03-3836-0050

（株）槇島貴金属精錬所
〒116-0014 東京都荒川区東日暮里6-32-14
TEL.03-3806-5945

（株）八木橋
〒360-0047 埼玉県熊谷市仲町74
TEL.048-523-1111

（株）吉井商店
〒920-0902 石川県金沢市尾張町1-10-30
TEL.076-221-1678

（株）MARUWA
〒488-0044 愛知県尾張旭市
南本地ヶ原町3-83
TEL.0561-51-0841

GOLD & PLATINUM
2017 No.38

発行日：平成29年9月29日
発行人：古宮 誠一
編集人：須江 米夫

発行：一般社団法人 日本金地金流通協会
〒101-0047 東京都千代田区内神田2-3-9 第2桐治ビル2F
TEL. 03-5207-5371（代表） FAX.03-3254-8663
http://www.jgma.or.jp

本誌の記事・写真などの無断転載を禁じます。

安心・安全な取引は、協会加盟店で

一般社団法人 日本金地金流通協会は、各種の広報活動を通じて
金・プラチナの正しい知識の普及に努めています。
金・プラチナの地金、コイン、ジュエリーなどのお取引やお問い合わせは、
信頼ある当協会会員各社のご利用をお勧めします。

GOLD

一般社団法人 **日本金地金流通協会**

〒101-0047 東京都千代田区内神田2-3-9 第2桐治ビル2F
TEL.03-5207-5371（代表）
www.jgma.or.jp

WORLD GOLD COUNCIL
ワールド ゴールド カウンシル
〒107-0051 東京都港区元赤坂1-5-20-709

PLATINUM
プラチナ・ギルド・インターナショナル株式会社
〒100-8575 東京都千代田区内幸町1-1-1
帝国ホテル本館 5F-506